

自治医科大学  
看護師特定行為研修センター<sup>1</sup>  
年次報告書



2015 – 2017 年度

2019 年 3 月

自治医科大学看護師特定行為研修センター  
Jichi training center for nurse designated procedures (J-ENDURE)



## 目 次

### I はじめに

1. 看護師特定行為研修センターの理念と基本方針.....	1
2. 看護師特定行為研修センター長挨拶.....看護師特定行為研修センター長 篠田清次	2
3. 寄稿	
看護師特定行為研修センター立ち上げの経緯及び今後への期待	
.....学長 永井良三	3
看護師特定行為研修センターの今後への期待	
.....附属病院長 佐田尚宏	4
看護師特定行為研修センターの今後への期待	
.....附属さいたま医療センター長 百村伸一	5
看護師特定行為研修センターの今後への期待	
.....附属病院副病院長・看護部長 大柴幸子	6
看護師特定行為研修センターの今後への期待	
.....附属さいたま医療センター副センター長・看護部長 石川治美	7
看護師特定行為研修センター立ち上げの経緯および今後の展望	
.....看護師特定行為センター副センター長 春山早苗	8

### II 看護師特定行為研修センターの事業概要

1. 看護師特定行為研修センター概要.....	9
2. 看護師特定行為研修センター関連委員会.....	10
3. 看護師特定行為研修センター教職員概要.....	11
4. 看護師特定行為研修センター協力施設概要.....	11
5. 看護師特定行為研修センターの主な取り組み等.....	12
6. 入講生、修了生の概要.....	14

### III 看護師特定行為研修センター活動報告

1. 2015年度	
1) 教育内容.....	17
2) 研究報告.....	22
2. 2016年度	
1) 教育内容.....	23
2) 研究報告.....	75
3. 2017年度	
1) 教育内容.....	77
2) 研究報告.....	129



# I はじめに



## 1. 看護師特定行為研修センターの理念と基本方針

自治医科大学は、医療に恵まれない地域社会の医療の確保と向上および地域の住民福祉の増進を図るために、医の倫理に徹し、高度な医療能力を有する医師を育成することを目的とし、併せて医学および看護学の進歩と福祉の向上に資することを使命とする。看護師特定行為研修センターは、自治医科大学の理念に則り、また今後の高齢社会に対応するために、手順書により一定の診療の補助を行うといった高度かつ専門的な知識と技術をもち、チーム医療のキーパーソンとして役割を発揮していくことができる看護師を養成することを目的に、看護師特定行為研修に取り組むことになった。平成27年8月5日付で自治医科大学は、厚生労働省が指定する研修機関に指定された。

## 2. 看護師特定行為研修センター長挨拶

看護師特定行為研修センター長 篠田清次

自治医科大学看護師特定行為研修センターの初代センター長を任せられた 篠田清次 です。永井良三学長から看護師の特定行為を行う研修センターを自治医科大学に開設するように命じられ、その準備委員会を組織したのは2015年2月3日であります。準備委員長を引き受けたものの、恥ずかしながら「看護師特定行為」という言葉を聞いたこともなく、もっと言うならば看護師の仕事の内容そのものをじっくりと考えたこともありませんでした。法律的には看護師は「傷病者若しくはじょく婦に対する療養上の世話又は診療の補助を行うことを業とする者をいう。」ということになっています。すなわち「医療の補助」しか行えない訳です。

永井学長が座長としてまとめられた「チーム医療の推進に関する検討会」から、「一定の医学的教育・実務経験を前提に専門的な臨床実践能力を有する看護師が、従来、一般的には「診療の補助」に含まれないものと理解されてきた一定の医療行為を医師の指示を受けて実施できる新たな枠組みを構築する必要がある。」という報告書がだされました。これをもとにその後議論が重ねられ、実践的な理解力、思考力及び判断力を要し、かつ高度な専門的知識及び技能をもって行う必要のある行為が特定行為として明確化され、医師の指示の下、プロトコールに基づき特定行為を実施する看護師に係る研修制度が創設されました。

私は40年近く医師として勤務してきましたが、看護師は「診療の補助」しかやってはいけないということを理解したのはこの時が始めてでした。診療行為と診療の補助行為を区別して考えたこともありませんでした。看護師が血液ガス分析を行っていることを目に入ることは以前にもありました、これは医師の直接指示のものと「診療の補助」行為と理解されていた訳です。ここでいう看護師特定行為とは医師からの個別の直接指示ではなく、予め取り決めたプロトコールによる包括的指示によって、その時点で看護師の判断により行われる行為であり、医師には事後に報告するものです。したがって「実践的な理解力、思考力及び判断力を要し、かつ高度な専門的知識及び技能」が必要で有り、そのための教育が重要となります。

自治医科大学では正に全学をあげてこの研修に取り組むことになり、その専任教授には学長ポストが割り当てられ、村上教授を中心に準備を進め、運営委員会や管理委員会を組織し、2015年9月25日に「自治医科大学看護師特定行為研修センター開所式」を執り行うことができました。その年の10月1日に厚生労働省から特定行為指定研修機関として認定を受け、第1期生として30名の研修を開始しました。いただいた研修機関認定番号は1番であり、この事業に携わってきたものは皆、この番号を大変誇らしく思いました。特定行為は全部で21区分が厚生労働省から認定されていますが、自治医科大学の場合は必要性とマンパワーを考慮して19区分で開始しました。研修はその後順調に進み、2016年9月26日に第1回の修了式において23名の修了生を特定行為看護師として世の中に送り出すことができました。全国の特定行為看護師の約2割は自治医科大学看護師特定行為研修センターにおいて研修をした修了生です。

現在盛んに呼ばれている働き方改革、これは医師に限ったことではありませんが、医療過疎地において、医師が疲弊しないようにタスクシェアリングを行うために特定行為看護師の役割は大変大きなものがあります。とともに、この役割を担う特定行為看護師が社会からリスペクトされるかどうかがこの制度の今後の更なる発展を左右すると思われることから、全国で活躍する当センター修了生と今後も連絡をとり、修了生の支援を継続したいと考えています。

### 3. 寄稿

#### 看護師特定行為研修センター立ち上げの経緯及び今後への期待

学長 永井良三

我が国は急速に少子高齢化と、人口の東京圏一極集中が進んでいる。また赤字国債は800兆円に及び、低経済成長時代となった。そのなかで社会保障費が増加しており、約10年前から医療と介護の提供体制の見直しや医療分野における規制改革が重要な政策課題となった。2009年に閣議決定された「規制改革推進のための3か年計画」では医療改革が重点計画の一つとなり、医師と他の医療従事者の役割分担の推進、及び専門性を高めた職種の導入が検討課題とされた。計画には、「看護師による処置・処方・投薬ができる、いわゆるナースプラクティショナーなどの導入について、各医療機関等の要望や実態等を踏まえ、その必要性を含め検討する」と記された。

2012年、内閣に「社会保障改革国民会議」が設置され、これからの日本の医療のあり方が議論された。これは2025年に戦後生まれの「団塊の世代」がすべて後期高齢者となるため、新しい医療提供体制が検討されたものである。報告書では、「医師の業務と看護業務の見直しは、早急に行うべき」と述べられた。社会保障改革国民会議の議論は、5%から10%への消費税増税とセットになっており、社会保障関連の財源確保も必要だった。すなわち税の增收分、約13兆円の8割を赤字国債の償還に、残り2割すなわち2.7兆円を社会保障に限定して使用するという案だった。2.7兆円の内訳は、子育て子供支援0.7兆円、年金0.6兆円、医療と介護1.5兆円である。

この議論と並行して、厚生労働省は「チーム医療推進会議」を設置し、2010年から2013年まで合計31回の会議を開催した。最終報告書では、「行為を特定し、手順書によりそれを実施する場合の研修制度を創設し、その内容を標準化することにより、今後の在宅医療等を支えていく看護師を計画的に養成していくこと」とされた。これらの検討を踏まえて2014年10月に「医療介護総合確保推進法」が制定された。これは医療と介護に関わる19の法律改定を行うための法律である。これをもとに医療法、保健師助産師看護師法、介護保険法などが改定された。また地域介護施設整備促進法が新たに制定され、病床の機能分化と連携、及び在宅医療と介護の推進等のために、消費税增收分による新たな基金(900億円)を都道府県に設置することとなった。この基金は、一定の手続を踏めば、特定行為研修生にも還元され、受講料の支援を受けることができる。

私は2010年以来、「チーム医療推進会議」の座長を務め、また社会保障改革国民会議にも参加していたため、多くの情報を知る立場にあった。そこで学長に就任した2012年以後、本学が率先してチーム医療の推進と看護師の職務権限の拡大に努めるべきと考えてきた。教職員の理解のおかげで、2016年春には特定行為研修センターを発足することができた。事業の重要性を考え、センター長は副学長、副センター長を看護学部長にお願いした。またセンターの教員として、看護系の教授1名を専任とし、医師67名、看護師24名、薬剤師6名、臨床工学技士4名、シミュレーションセンターの1名に兼務を発令した。文字通り国内有数の体制であり、全学挙げての事業となった。

特定行為研修によって看護師の職務権限は大きく拡大した。これは多くの患者によい医療が届けるためのシステムになると信じている。しかし欧米の診療看護師や医師補助士の制度を考えればまだ道は遠い。まずは特定行為研修制度を活用してしっかりと実績を積み、その意義と限界を明らかにすることにより、次のステップに進むことが大事である。それはひとえに看護職自らが開拓していかなければならない険しい道である。本学の看護師特定行為研修センターおよび附属病院、さいたま医療センターがその先鋒となることを願っている。

## 看護師特定行為研修センターの今後への期待

附属病院長 佐田尚宏

自治医科大学に看護師特定行為研修センターが設立されて約3年半が経過しました。2018年9月末までセンターを修了した121名中、現在附属病院には12領域、22名の研修修了者が在籍し、修了後の実践準備段階を経て、特定行為実施者が着実に増加しています。現在は、ER、HCUなど高機能病床での特定行為実施を促進し、将来的には在宅医療への発展を計画しています。

私が所属する日本外科学会では特定行為について、「外科領域」「周術期管理」のパッケージ化を提案しています。医療従事者の負担軽減を実現するためには、多職種間のタスクシフティング、タスクシェアリングがより実践的になることが必要で、そのために関連業務について包括的に実施できるように制度改変することは重要です。特定行為を拡大するためには、医師・看護師だけでなく医療従事者全体でタスクシフティング、タスクシェアリングを考えて、「医師と看護師が協力して効率的に業務を実施する」という発想で進めることが重要です。附属病院では「病院としての一体感の醸成」を今年のテーマのひとつとして、業種間が協力しやすい雰囲気作りに配慮しています。今後増加する医療需要に対応し、働き方改革法案への対応として病院業務を効率化するためにも、看護師特定行為は大変重要な取り組みで、附属病院では病院を挙げて特定行為看護師の育成と活躍支援を全力でサポートしていきます。

## 看護師特定行為研修センターの今後への期待

附属さいたま医療センター長 百村伸一

まず、自治医科大学看護師特定行為研修センターにおかれましては他の医育機関に先駆けて平成27年8月に厚生労働省から指定研修期間の承認を得て以来、多くの研修修了者を輩出されていることを高く評価したいと思います。

一定の研修を受けた看護師が医師の包括的指示のもとに医療行為を行うことは当初、在宅医療などにおけるメリットが大きいと考えられていました。しかしながら特定行為看護師が求められるのは在宅医療だけではありません。高度な医療を提供する急性期病院の集中治療室や救急センターにおいても、今後特定行為看護師のニーズは高まってゆくものと思われます。

また、現在、医師等の働き方改革が進む中でタスクシフト、タスクシェアリングの必要性が叫ばれています。タスクシフト、タスクシェアリングはともすれば医師以外の職種が医師の業務を一方的に肩代わりするものととらえられがちですがそうではありません。看護師の診療行為が可能となることによって、円滑に業務が遂行でき、患者さんのサービス向上につながるだけではなく、医療提供者側の働き方改革にもつながると考えています。勿論、看護師をはじめとする医師以外の医療職の働き方改革も並行して進められなければなりません。また、特定行為看護師の活動の対価も早急に考えてゆく必要があります。

このように看護師特定行為研修の普及に合わせて解決してゆかなければならぬ問題もまだまだ多くあります、国が認めたこの研修制度を広めてゆくことは医育機関である自治医科大学の大きな使命でもあり附属さいたま医療センターがその推進に貢献することは当然のことと考えています。さらに、さいたま医療センターで働く一人でも多くの意欲ある看護師がこの研修を受講されることも期待します。

最後に、我国における看護師特定行為研修制度の普及を担う自治医科大学看護師特定行為研修センターの今後ますますの発展を祈念いたします。

## 看護師特定行為研修センターの今後への期待

附属病院副病院長・看護部長 大柴幸子

全国に先駆けて2015年に開設された自治医科大学看護師特定行為研修センター（以下、センター）では、大学教授陣が研修責任者、指導者に名前を連ねる充実した指導体制、質の高い研修カリキュラム構成のもと、高度かつ専門的な知識と技術をもち、チーム医療のキーパーソンとして役割を発揮していくことができる看護師を育成しています。

附属病院ではセンター開設当初より受講生を送り出し、2018年4月期までの入講生は28名（再入講生1名含む）、修了者は23名（再入講生1名含む）となりました。2018年度10月期に新規3名、科目追加5名（内感染に係わる薬剤投与関連に2名再入講）が入講しました。2018年12月時点での受講生は11名で、2019年3月または2019年9月に修了予定です。

2018年度からは特定行為研修修了者が院内での活動ができるように支援体制を整備しています。活動に関する実施要項を作成し、院内で安全に活動ができるよう手順書の作成から実践評価を含めて実践までのフローを明確化しました。2019年1月末現在では10名の看護師が臨床にて特定行為を実践しています。活動可能な特定行為研修修了者名が院内で周知されるように、主な会議では必ず情報提供しています。さらに今後は曜日別に特定行為実践担当者を決め、より効率的に活動できるようにしていきたいと考えています。

附属病院では高度先進医療に対応できる高度な専門実践力と患者の生活を支える視点で援助ができ、どこでも通用する実践力で地域医療に貢献できる看護師を育てていきたいと考えています。そのような看護師を育てていくうえでも、看護師の今後の役割拡大や需要拡大を見据えたうえでも、センターの担う役割や意義はとても大きいと考えます。実践的な理解力、思考力及び判断力、高い技能をもつ看護師の育成にますますご尽力いただくことを期待しています。センターでの研修修了者が増え、院内外で活躍することが、より質の高い医療、看護の実践につながっていくと考えます。

## 看護師特定行為研修センターの今後への期待

附属さいたま医療センター副センター長・看護部長 石川治美

高度急性期から在宅医療まで、患者の状態に応じた適切な医療を、地域において効果的かつ効率的に提供する体制を整備し、患者ができるだけ早く社会に復帰し、地域で継続して生活を送れるようにするために、チーム医療の推進が必要です。チーム医療とは、医療に従事する多種多様な医療スタッフが、各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供することです。患者に24時間寄り添う看護師は、チーム医療のキーパーソンであるという自覚を持って、専門性の向上に努め、その役割を拡大していくことが求められており、患者や医師その他の医療スタッフから寄せられる期待は大きくなっています。特定行為看護師がその期待に応えるためには、特定行為に関する知識・技術はもちろん、チーム医療のキーパーソンとしての役割遂行に必要な、リーダーシップ能力も習得しなければならないと考えます。

研修センター開設から現在までの研修修了生や受講生は、特定行為看護師の先駆者として、所属施設における特定行為看護師のあるべき姿を示していくという役割も担っているのではないでしょうか。その役割が果たせるようリーダーに必要とされる能力の中でも、学習能力・判断力・コミュニケーション能力・実行力、そして誠実さと寛容性についても習得してもらえるような研修センターであってほしいと願います。実習生を受け入れるさいたま医療センター看護部としても、知識・技術に優れ、リーダーシップが発揮できる特定行為看護師育成に尽力していきたいと思います。

## 看護師特定行為研修センター立ち上げの経緯および今後の展望

看護師特定行為センター副センター長 春山早苗

本研修センターが開設されてから、早、3年8ヶ月が経ちました。看護師特定行為研修制度は新たな国の中規制であり、なかなか複雑で、省令で規定されていることもあります、自由裁量の部分も多く、研修開始から今日まで試行錯誤の連続でした。このような状況の中で、平成27年10月から4月と10月に30名ずつの受講者を毎年、受け入れ、平成30年9月末までに修了者121名を輩出し、延べ421の研修をなんとか終えることができました。これもひとえに、永井学長のリーダーシップの下、全学体制で、医学部・看護学部の教員の皆様、そして附属病院の医師・看護師をはじめとした様々な職種の方々にご協力・ご指導をいただいたおかげと、改めてここに感謝申しあげます。また、簗田センター長を中心に、センターのスタッフである教職員が一丸となって取り組んできた賜であると感じています。

本センターの特定行為研修の目的は、研修制度創設の趣旨と本学の理念を踏まえ、地域医療及び高度医療の現場において、医療安全に配慮しつつ、高度な臨床実践能力を發揮し、自己研鑽を継続しながらチーム医療のキーパーソンとして機能できる看護師を育成することです。この目的を達成するために、特に重視してきたことは、へき地を含むいかなる地域や施設の規模であっても、研修の受講機会や研修内容の質が確保される研修体制を整備することであり、研修を修了した看護師が所属する職場において、根拠に基づく知識と実践的経験を応用し、チーム医療の中で自律的に看護実践を行うことができるようになります。したがって、受講者のペースでいつでもどこからでも学習を進められるeラーニングを導入し、そのコンテンツは一部、既存のものを活用していますが、多くは自前で作成し、そこに集合研修による演習や実習を組み合わせました。また、受講しやすさだけではなく、研修修了後の看護師の活動の基盤づくりとなるよう、条件が整えば受講者の所属施設を協力施設とし、所属施設で実習することを推奨してきました。協力施設は、現在、33施設となっています。さらに所属施設の推薦を受講の条件としました。

以上のように、研修を企画・運営してきた結果、本研修センターには未だ全国から、そしてへき地医療拠点病院やへき地診療所を含む様々な規模の医療機関、高齢者や障害者の施設や訪問看護ステーション等から受講者が集まり、研修を終えて所属施設で活躍しつつあります。本センターの研修は、看護師の中で多くを占める中堅期看護師が、それまでの経験を活かしつつ、さらに診療の補助に関わる知識とスキルを修得し、医師をはじめとした他職種と協働しながらチーム医療の中で、より自律して機能するための看護実践能力を高めることに寄与していると自負しています。研修に関わる課題もまだまだありますが、今後は修了者のフォローアップにより一層、力を入れ、本センターの研修修了者がスーパージェネラリストとして、医療の隙間を埋めながら、より質の高い看護を実践できるよう応援して参りたいと思います。

## Ⅱ 看護師特定行為研修センターの事業概要



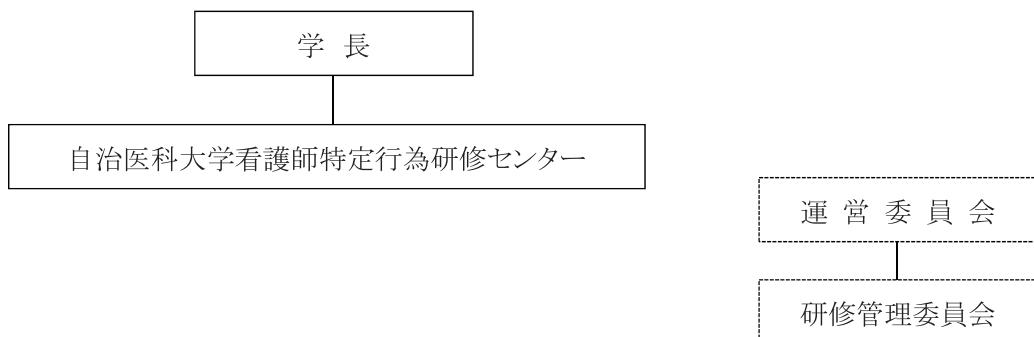
## 1. 看護師特定行為研修センター概要

看護師特定行為研修センターは、自治医科大学が保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）第37条の2に基づく指定研修機関として特定行為研修を適切に実施するため設置された（自治医科大学看護師特定行為研修センター設置規程 昭和27年規程第59号）。

### 組織体制

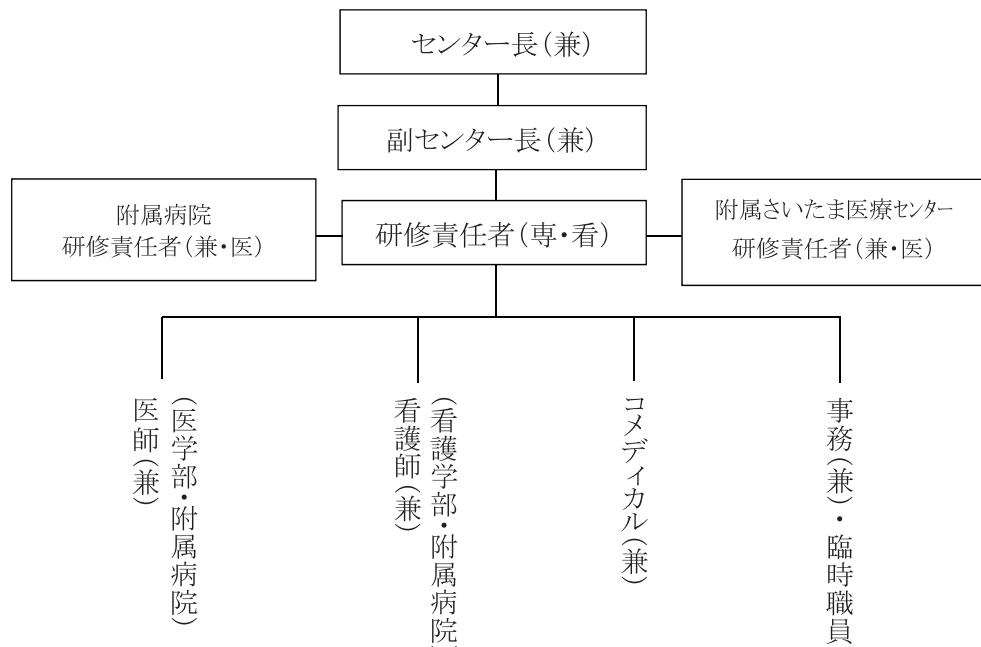
大学における位置付けは、大学の組織とし、学長の直属機関とする。

センターの運営を円滑に行うため「運営委員会」を設置する。



### センターの構成員

センター長、副センター長、研修責任者（うち1名は専従）、センター員で構成する。



※附属病院とは、附属病院と附属さいたま医療センターを示す。

## 2. 看護師特定行為研修センター関連委員会

看護師特定行為研修センターは、下記の委員会を設置し、管理・運営や教育・評価内容の妥当性などを検討し、審議している。

- ・自治医科大学看護師特定行為研修センター運営委員会（2015-2017度は月1回開催、2018年度から月2回の年6回開催）
- ・自治医科大学看護師特定行為研修管理委員会（年2回、3月及び9月に開催）
- ・自治医科大学看護師特定行為研修 安全管理委員会（必要時 臨時開催）
- ・科目担当者会議（年11回）

### 1 自治医科大学看護師特定行為研修センター運営委員会

自治医科大学看護師特定行為研修センター運営委員会の構成員はセンター長を中心に15名で構成され、主にセンターの運営を円滑に行うための以下の事項を審議する。

- (1) 施設及び設備の整備に関すること。
- (2) 適切な指導体制の確保に関すること
- (3) 医療に関する安全管理のための体制の確保に関すること。
- (4) 規程等の整備に関すること。
- (5) 自治医科大学看護師特定行為研修センター運営委員会及び自治医科大学看護師特定行為研修管理委員会に関すること
- (6) その他、特定行為研修の実施に関する必要なこと。

### 2 自治医科大学看護師特定行為研修管理委員会

自治医科大学看護師特定行為研修管理委員会は外部委員を含め16名で構成され、以下の審議を行う。

- (1) 特定行為区分ごとの特定行為研修計画の策定に関すること。
- (2) 2つ以上の特定行為区分について、特定行為研修を行う場合の特定行為研修の相互間の調整に関すること。
- (3) 受講者の履修状況の管理に関すること。
- (4) 修了の際の評価などに関すること。
- (5) その他、特定行為研修の実施及び管理に関すること。

### 3 自治医科大学看護師特定行為研修 安全管理委員会

看護師特定行為研修センター専従研修責任者の招集により、事故等報告書が提出された場合に、研修責任者ならびに該当科目の指導者等の関係者で構成され、安全管理に関する審議を行う。

### 4 科目担当者会議

研修生の学習進捗状況や教育内容に関する情報の共有を行う。科目担当者会議は看護学部および看護師特定行為研修センター教員を中心に特定行為研修に関わる看護学系教員で構成されている。

### 3. 看護師特定行為研修センター教職員概要

#### 1 共通科目

共通科目では2015年度、2016年度、2017年度それぞれ21名、35名、39名が指導者・指導補助者として教育に関わった。

年度	指導者	指導補助者
2015年度	7名	14名
2016年度	22名	11名
2017年度	27名	12名

#### 2 区別科目

区別科目では2015年度、2016年度、2017年度それぞれ103人、115人、116人が指導者・指導補助者として教育に関わった。客観的臨床能力試験の外部評価者は、2015年度、2016年度、2017年度それぞれ4名、5名、5名であった。

年度	指導者	指導補助者
2015年度	59名	44名
2016年度	65名	50名
2017年度	67名	49名

### 4. 看護師特定行為研修センター協力施設概要

2016年度から区別科目の実習は、条件を満たす受講生の自施設を協力施設として申請し、自施設で実習を行うことができる研修体制・指導体制を調整した。

条件：指導者となる医師の確保（臨床研修医指導者講習会受講歴有）、実習期間の症例数の確保（半期10症例以上）、医療安全体制の連携、学習環境の確保など

年度	協力施設	指導者
2016年度	11施設	37名
2017年度	19施設	66名

## 5. 看護師特定行為研修センターの主な取り組み等

看護師特定行為研修センターは、2015年8月5日から指定研修機関として以下の研修目的・目標を掲げ、19の特定行為区分の厚生労働省の指定を受け、自治医科大学看護師特定行為研修を行っている。

### 研修目的

地域医療及び高度医療の現場において、医療安全を配慮しつつ、高度な臨床実践能力を発揮し、自己研鑽を継続しながらチーム医療のキーパーソンとして機能できる看護師を育成する。

### 研修目標

1. 地域医療及び高度医療の現場において、迅速かつ包括的なアセスメントを行い、当該特定行為を行う上での知識、技術及び態度の基礎的能力を養う。
2. 地域医療及び高度医療の現場において、患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実行できる基礎的能力を養う。
3. 地域医療及び高度医療の現場において、問題解決にむけて、多職種と効果的に協働できる能力を養う。
4. 自らの看護実績を見直しつつ、標準化する能力を養う。

指定研修機関に至る準備においては、2015年1月に「特定行為に係る看護師研修機関開設準備委員会」を立ち上げ、当該指定研修機関として申請すべく準備を開始した。21区分の特定行為研修のうち、19区分の申請に向け、準備委員会を4回、特定行為研修管理員会を1回開催し、6月に厚生労働省関東信越厚生局に申請し、8月には厚労省医道審議会において申請書の審議を経て、19区分の看護師特定行為研修の指定研修機関として第1号の認可決通知を得た。

その後、半期（4月開始、10月開始）ごとに定数30名（各特定行為区分の定数は、実習期間ごとに上限5名）の受講生を募集した。募集の広報活動は、2015年度は看護学部、看護学研究科の教育に関連している病院、施設等を中心に行い、同時に全国都道府県の看護協会にも広報用のリーフレット配布を行った。また、大学附属病院の2施設に関しては、看護部を通して募集案内を行った。2017年度からは、看護系雑誌や医学系新聞等への募集記事掲載なども行った。さらに、入講式及び修了式は半期ごとに開催し、その都度、学内広報誌にて大学内の周知を図った。

教育活動としては、講義・演習は概ねすべてICT（Information and Communication Technology）を活用したeラーニングにて行っている。そのため、情報センターとも協議・連携し、学習管理ソフトMoodleを活用できる教育提供システムを構築した。さらに、情報センターのほか企業にも依頼し、eポートフォリオMaharaも活用できるようにした。同時に、受講生が大学内でもICTが活用できるよう看護学棟内、研修センター建物内のWifi環境の整備を行った。これらの教育提供システムやICT環境の構築により、受講生は大学内ではもちろんのこと、全国各地で就労継続したまま研修の受講が可能となっている。なお、eラーニング教材は、科目担当者会議を中心に作成し、Moodleへのアップ作業などは研修センター教員が担うなどその都度調整しながら行った。

また、実習においても、集合研修を最小限にし、共通科目の基礎実習のみ大学または附属両病院にて行い、区別科目では可能な限り受講生の自施設を協力施設として申請し、就労継続しながらの実習を可能としている。附属両病院の実習環境の整備としては、電子カルテ等の権限調整、各診療科への協力依頼、指導者・

指導補助者への実習指導の依頼説明など附属両病院の看護部や研修責任者と協議・連携しながら行った。

さらに、ICTを活用しての教育方法は、研修受講中だけでなく、研修修了後も継続学習ができるよう支援システムとなっており、修了後もフォローアップコースを開講し、修了生への特定行為制度に関する情報提供、修了生間の情報提供、フォローアップの研修企画の案内、研修生の学会や依頼公演等のサポートを行っている。

受講生の学習環境への支援として、タブレットの貸し出しやパソコン操作のサポートも含めたオリエンテーションを開催している。また、実習環境への支援として、研修責任者による協力施設との連携のための視察や説明会など行っている。

そのほか、他の指定研修機関の申請準備や研修教育の質問等に関しては、積極的に対応した。また、各種学会の学術集会やシンポジウム、都道府県行政からの説明会などの講演依頼は受けるようにし、修了生の講演依頼の推薦なども行い、本研修制度の普及に最大限努めた。さらに、修了生の活動の実態や評価につながる調査研究、指定研修機関の実態や課題への取り組みのための調査研究にも取り組んだ。

## 6. 入講生、修了生の概要

2015年度から2017年度までのべ126名が入講し、そのうち104名が2017年度までに研修を修了した。

### 1 入講生の概要

2015年度は10月期30名、2016年度は4月期、10月期ともに30名、2017年度4月期は14名、10月期は22名が入講した。入講生の所属施設概要ならびに年代および性別を表1・表2に示す。入講生の所属施設は「その他の病院」が59名と最も多く、次いで「へき地医療拠点病院」24名であった。「訪問看護ステーション」からは10名が入講した。入講生の年代は30代～40代が8割を越え、全体の7割程度が女性であった。

入講時の区別別科目受講希望状況を表3に示す。「動脈血ガス分析関連」「栄養・水分管理に係る薬剤投与関連」「呼吸器関連（人工呼吸療法に係るもの）関連」「創傷管理関連」の受講希望が多かった。

表1 2015年度から2017年度の入講生の所属施設種別

施設種別	合計（名）
自治医科大学附属病院	22
自治医科大学附属さいたま医療センター	6
訪問看護ステーション	10
へき地診療所	1
へき地医療拠点病院	24
その他の病院	59
その他（障害者施設、特養、診療所、NPO団体）	3
大学	1
合計	126

表2 2015年度から2017年度の入講生の年代および性別

年代	性別	男女別計	計	
20代	男性	3	8	6.3%
	女性	5		
30代	男性	18	54	42.9%
	女性	36		
40代	男性	12	55	43.7%
	女性	43		
50代	男性	2	9	7.1%
	女性	7		
計	男性	29 (27.9%)	126	100.0%
	女性	75 (72.1%)		

表3 2015年度から2017年度の入講生の区別科目希望数

区別科目名	2015年 10月期	2016年 4月期	2016年 10月期	2017年 4月期	2017年 10月期	計
呼吸器関連（気道確保に係るもの）関連	9	8	4	3	4	28
呼吸器関連（人工呼吸療法に係るもの）関連	12	7	9	4	8	40
呼吸器関連（長期呼吸療法に係るもの）関連	13	8	6	4	7	38
循環器関連	2	2	2	1	1	8
胸腔ドレーン管理関連	2	2	0	1	0	5
腹腔ドレーン管理関連	1	1	1	1	3	7
ろう孔管理関連	9	4	1	3	5	22
栄養に係るカテーテル管理関連 (中心静脈カテーテル関連)	5	3	4	4	4	20
栄養に係るカテーテル管理関連 (PICC 関連)	7	1	4	1	4	17
創傷管理関連	12	6	9	5	8	40
創部ドレーン管理関連	2	2	1	2	1	8
動脈血ガス分析関連	13	12	10	5	6	46
透析管理関連	3	1	2	1	0	7
栄養・水分管理に係る薬剤投与関連	9	9	8	5	10	41
感染に係る薬剤投与関連	4	3	3	2	4	16
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	2	5	2	4	2	15
循環動態に係る薬剤投与関連	4	3	5	3	4	19
精神・神経症状に係る薬剤投与関連	5	3	2	1	1	12
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	0	0	2	2	0	4

## 2 修了生の概要

当センターの研修では、共通科目と区別科目を受講し最短でも1年間の受講が必要となる。したがって、2016年9月に初めての修了生を輩出した。2016年9月の修了生は23名、2017年3月修了生は29名、2017年9月修了生は31名、2018年3月修了生は22名であった。区別科目修了数を表4に示す。表3の受講希望数と比較すると、入講時以降に区別科目の受講を追加していることが分かる。

表4 2015年度から2017年度の区別科目修了数

区別科目名	2016年 9月	2017年 3月	2017年 9月	2018年 3月	計
呼吸器関連（気道確保に係るもの）関連	7	8	5	5	25
呼吸器関連（人工呼吸療法に係るもの）関連	10	8	8	6	40
呼吸器関連（長期呼吸療法に係るもの）関連	8	8	9	11	38
循環器関連	0	2	4	1	8
胸腔ドレーン管理関連	0	3	2	3	5
腹腔ドレーン管理関連	0	2	1	1	7
ろう孔管理関連	6	5	3	7	22
栄養に係るカテーテル管理関連（中心静脈カテーテル関連）	4	3	4	8	20
栄養に係るカテーテル管理関連（PICC 関連）	5	5	4	2	17
創傷管理関連	7	6	12	9	40
創部ドレーン管理関連	1	2	2	3	8
動脈血ガス分析関連	11	13	10	11	46
透析管理関連	3	0	3	2	7
栄養・水分管理に係る薬剤投与関連	4	11	8	10	41
感染に係る薬剤投与関連	1	4	2	5	16
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	0	5	2	4	15
循環動態に係る薬剤投与関連	2	4	4	6	19
精神・神経症状に係る薬剤投与関連	1	5	2	5	12
皮膚損傷に係る薬剤投与関連	0	0	2	3	4

### III 看護師特定行為研修センター活動報告



# 1. 2015 年度



## 1) 教育内容

### 1 臨床推論／フィジカルアセスメント I

#### a. スタッフ

指導者 松村正巳、中村剛史、鈴木義彦

指導補助者 鈴木美津枝、淺田義和

#### b. 学習目的

多様な臨床現場において対象者が持つ問題を改善又は解決するために、臨床推論の概念や症状ごとの臨床推論過程（フィジカルアセスメント含む）について学修する。

#### c. 時間数

34時間（17回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

#### f. 科目取得状況

27/30名

### 2 臨床推論／フィジカルアセスメント II

#### a. スタッフ

指導者 松村正巳、中村剛史、鈴木義彦

指導補助者 鈴木美津枝、淺田義和

#### b. 学習目的

対象者が持つ問題を改善又は解決するための診断プロセス・臨床推論に必要な各種臨床検査、画像検査の原理原則について学修する。

#### c. 時間数

26時間（13回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

#### f. 科目取得状況

24/30名

### 3 病態生理／疾病論 I

#### a. スタッフ

指導者 北田志郎  
指導補助者 平尾温司、関山友子

#### b. 学習目的

解剖学、生理学および病態学の原則を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的かつ迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

#### c. 時間数

42時間（21回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

26/30名

### 4 病態生理／疾病論 II

#### a. スタッフ

指導者 北田志郎  
指導補助者 平尾温司、関山友子

#### b. 学習目的

臨床場面において日常的によくみられる主要疾患の病態および治療を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態の変化や疾患および必要となる治療を包括的かつ迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

#### c. 時間数

54時間（27回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

24/30名

**5 臨床薬理学****a. スタッフ**

指導者 大塚公一郎  
 指導補助者 成田 伸、須藤俊明

**b. 学習目的**

臨床薬理学の基礎的知識を学習する。  
 薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理の向上を図るための知識と技術を学ぶ。  
 代表的な薬物療法について理解し、臨床場面で安全に使用するのに必要な知識を学習する。

**c. 時間数**

42時間（21回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

単元ごとに事後テストを行い、100点満点をもって、次の単元に進む。  
 最終単元修了後、修了試験（筆記試験）を受験する。修了試験は100点満点で、60点以上の獲得をもって修了を設定し、科目の単位が獲得できる。

**f. 科目取得状況**

25/30名

**6 医療安全学****a. スタッフ**

指導者 市田 勝  
 指導補助者 川上 勝、佐々木雅史

**b. 学習目的**

安全で質の高い特定行為を実施する上で必要な知識や考え方を身につける。

**c. 時間数**

24時間（12回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）、演習

**e. 評価方法**

筆記試験（最終回）  
 小テストまたは課題レポート（各回）

**f. 科目取得状況**

26/30名

## 7 特定行為と手順書

### a. スタッフ

指導者 市田 勝  
指導補助者 中村美鈴、大柴幸子

### b. 学習目的

多様な臨床場面において、特定行為関連法規を踏まえ、特定行為の手順書を作成・活用・評価するための実践課程を理解し、必要な特定行為を安全に実践する能力を学修する。

### c. 時間数

30時間（15回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

27/30名

## 8 特定行為と基礎実習 I

### a. スタッフ

指導者 松村正巳、中村剛史、鈴木義彦  
指導補助者 関山友子、江角伸吾、鈴木美津枝、浅田義和、須藤俊明

### b. 学習目的

チーム医療として実践するために必要な基礎的な臨床診断プロセスや診察技術について演習・実習を通して修得する。

### c. 時間数

38時間（演習10回（うち試験1回）+実習3日間）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

e ラーニング演習の最終回は主に展開してきた事例検討の試験を行う。  
集合実習の事例展開の最終日に観察評価を行う。合格できるまで試験を受ける。

### f. 科目取得状況

23/30名

**9 特定行為基礎実習Ⅱ****a. スタッフ**

指導者 松村正巳、中村剛史

指導補助者 鈴木美津枝

**b. 学習目的**

チーム医療の中で安全に特定行為を実践するための診察技術や臨床診断の基礎的能力を習得する。

**c. 時間数**

25時間（7日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

観察評価：病棟・外来実習中に対象者の了解を経て、身体診察、医療面接、多職種との調整などの評価基準の確認を指導者より受ける。

**f. 科目取得状況**

23/30名

## 2) 研究報告

### 教職員

#### ●国際会議

- ・The Association for Medical Education in Europe (AMEE) 2015  
Asada Y, Honda Y, Murakami R, Esumi S, Iizuka Y, Haruyama S. Design and development of the e-learning course for the nurses who perform medical auxiliary acts. AMEE 2015 abstract book. Glasgow, Scotland, United Kingdom; 2015. p. 228.

#### ●報告書

- ・診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究：平成26年度-27年度総合研究報告書：厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業  
<http://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku/seisaku/10800000-Iseikyoku/0000078671.pdf>
- ・診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究：平成26-27年度総括研究報告書：厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業
- ・診療の補助における特定行為等に係る研修の体制整備に関する研究：平成27年度総括研究報告書：厚生労働科学研究費補助金地域医療基盤開発推進研究事業

#### ●講演

- ・第66回日本救急医学会関東地方会学術集会（2016年2月6日：都市センターシティ、東京都千代田区）  
村上礼子. 看護師特定能力事業への期待と展望 自治医科大学看護師特定行為研修修了生への期待と展望.（日本救急医学会関東地方会雑誌, 37 (1); 86, 2016.)
- ・第43回日本集中治療医学会学術集会（2016年2月11～14日神戸国際展示場、兵庫県神戸市）  
村上礼子. 特定行為に係る看護師の研修制度の実際と課題, (シンポジウム)  
(日本集中治療医学会雑誌, 23 (Suppl); 259, 2016)

## 2. 2016 年度



## 1) 教育内容

### 4月期共通科目

#### 1 臨床推論／フィジカルアセスメント I

##### a. スタッフ

指導者 松村正巳、中村剛史、鈴木義彦  
指導補助者 村上礼子、八木街子

##### b. 学習目的

多様な臨床現場において対象者が持つ問題を改善又は解決するために、臨床推論の概念や症状ごとの臨床推論過程（フィジカルアセスメント含む）について学修する。

##### c. 時間数

34時間（17回）

##### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

##### e. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

##### f. 科目取得状況

29/33名

#### 2 臨床推論／フィジカルアセスメント II

##### a. スタッフ

指導者 松村正巳、中村剛史、鈴木義彦  
指導補助者 村上礼子、八木街子

##### b. 学習目的

対象者が持つ問題を改善又は解決するための診断プロセス・臨床推論に必要な各種臨床検査、画像検査の原理原則について学修する。

##### c. 時間数

26時間（13回）

##### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

##### e. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

##### f. 科目取得状況

34/36名

### 3 病態生理／疾病論 I

#### a. スタッフ

指導者 北田志郎

指導補助者 春山早苗、平尾温司、関山友子

#### b. 学習目的

解剖学、生理学および病態学の原則を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的かつ迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

#### c. 時間数

42時間（21回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

29/34名

### 4 病態生理／疾病論 II

#### a. スタッフ

指導者 北田志郎

指導補助者 春山早苗、平尾温司、関山友子

#### b. 学習目的

臨床場面において日常的によくみられる主要疾患の病態および治療を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態の変化や疾患および必要となる治療を包括的迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

#### c. 時間数

54時間（27回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

30/36名

**5 臨床薬理学****a. スタッフ**

指導者 大塚公一郎

指導補助者 江角伸吾、須藤俊明、村上礼子

**b. 学習目的**

臨床薬理学の基礎的知識を学習する。

薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理の向上を図るための知識と技術を学ぶ。

代表的な薬物療法について理解し、臨床場面で安全に使用するのに必要な知識を学習する。

**c. 時間数**

42時間（21回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

単元ごとに事後テストを行い、100点満点をもって、次の単元に進む。

最終単元修了後、修了試験（筆記試験）を受験する。修了試験は100点満点で、60点以上の獲得をもって修了を設定し、科目の単位が獲得できる。

**f. 科目取得状況**

29/35名

**6 医療安全学****a. スタッフ**

指導者 新保昌久、遠山信幸

指導補助者 川上 勝、淺田義和、竹野井さとみ、亀森康子

**b. 学習目的**

安全で質の高い特定行為を実施する上で必要な知識や考え方を身につける。

**c. 時間数**

24時間（12回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）、演習

**e. 評価方法**

筆記試験（最終回）

小テストまたは課題レポート（各回）

**f. 科目取得状況**

26/34名

## 7 特定行為と手順書

### a. スタッフ

指導者 新保昌久

指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、大柴幸子

### b. 学習目的

多様な臨床場面において、特定行為関連法規を踏まえ、特定行為の手順書を作成・活用・評価するための実践課程を理解し、必要な特定行為を安全に実践する能力を学修する。

### c. 時間数

30時間（15回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

26/33名

## 8 特定行為と基礎実習 I

### a. スタッフ

指導者 松村正巳、中村剛史、鈴木義彦、大塚公一郎、北田志郎

指導補助者 春山早苗、村上礼子、鈴木美津枝、川上 勝、平尾温司、八木街子、関山友子、江角伸吾、浅田義和、須藤俊明

### b. 学習目的

チーム医療として実践するために必要な基礎的な臨床診断プロセスや診察技術について演習・実習を通して修得する。

### c. 時間数

38時間（演習10回（うち試験1回）+実習3日間）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

e ラーニング演習の最終回は主に展開してきた事例検討の試験を行う。

集合実習の事例展開の最終日に観察評価を行う。合格できるまで試験を受ける。

### f. 科目取得状況

29/37名

## 9 特定行為基礎実習Ⅱ

### a. スタッフ

**指導者** 松村正巳、石川鎮清、畠山修司、松山 泰、石川由紀子、山本 祐、隈部綾子、中村剛史、新保昌久、遠山信幸、菅原 齊、藤田英雄、崎山快夫、眞嶋浩聰、賀古真一、豊島秀男、寺井千尋、森下義幸、小山信一郎  
**指導補助者** 村上礼子、鈴木美津枝、八木街子

### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に特定行為を実践するための診察技術や臨床診断の基礎的能力を習得する。

### c. 時間数

25時間（7日間）

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

観察評価：病棟・外来実習中に対象者の了解を経て、身体診察、医療面接、多職種との調整などの評価基準の確認を指導者より受ける。

### f. 科目取得状況

29/37名

## 4月期区分別科目

### 1 呼吸器関連 気道確保 I

#### a. スタッフ

指導者 讃井将満、牧野 淳、石黒芳紀、梶浦 明、大塚祐史、布宮 伸、玉井謙次、方山真朱、小山寛介  
指導補助者 村上礼子、八木街子、茂呂悦子、神山淳子、八巻 均、荒井和美、八木橋智子、草浦理恵

#### b. 学習目的

チーム医療の中で経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

#### c. 時間数

8時間（4回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

7/8名

### 2 呼吸器関連 気道確保 II

#### a. スタッフ

指導者 讃井将満、牧野 淳、石黒芳紀、梶浦 明、大塚祐史、布宮 伸、玉井謙次、方山真朱、小山寛介  
指導補助者 村上礼子、八木街子、茂呂悦子、神山淳子、八巻 均、荒井和美、八木橋智子、草浦理恵

#### b. 学習目的

チーム医療の中で安全にバッグバルブマスク（BVM）を用いた用手換気および経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

#### c. 時間数

15時間（5日間）

#### d. 研修方法

実習

#### e. 評価方法

観察試験：病棟実習中に対象者の了解を得て、身体診察、医療面接、他職種との調整などに関する評価基準をもとに指導医より確認をうける。実技試験 OSCE

#### f. 科目取得状況

7/8名

### 3 呼吸器関連 人工呼吸療法 I

#### a. スタッフ

指導者 讃井将満、牧野 淳、布宮 伸、玉井謙次、方山真朱、小山寛介

指導補助者 村上礼子、八木街子、八木橋智子、草浦理恵、茂呂悦子、神山淳子、八巻 均、荒井和美

#### b. 学習目的

チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV（非侵襲的陽圧換気療法）時のモード設定条件の変更を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸管理下の鎮痛・鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

#### c. 時間数

39時間（20回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

10/11名

### 4 呼吸器関連 人工呼吸療法 II

#### a. スタッフ

指導者 讃井将満、塙塚潤二、川岸利臣、布宮 伸、方山真朱、小山寛介

指導補助者 村上礼子、八木街子、八木橋智子、草浦理恵、茂呂悦子、神山淳子、八巻 均、荒井和美

#### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV（非侵襲的陽圧換気療法）時のモード設定条件の変更を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

チーム医療の中で安全に人工呼吸管理下の鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

#### c. 時間数

24時間（10日）

#### d. 研修方法

演習、実習

#### e. 評価方法

観察試験：病棟実習中に対象者の了解を得て、人工呼吸療法に関する評価基準をもとに指導医より評価をうける

#### f. 科目取得状況

10/11名

## 5 呼吸器関連 長期呼吸療法

### a. スタッフ

指導者 中村謙一、小野 滋、馬場勝尚、讚井将満、牧野 淳、布宮 伸、玉井謙次、方山真朱、  
小山寛介

指導補助者 村上礼子、里光やよい、黒田光恵、茂呂悦子、八木橋智子、草浦理恵

### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に気管カニューレの交換を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

### c. 時間数

21時間（講義5回＋実習3日間）

### d. 研修方法

講義、実習

### e. 評価方法

筆記試験、実技試験（OSCE）

観察試験：病棟実習中に対象者の了解を得て、気管カニューレの交換に関する評価基準をもとに指導医より確認をうける。

### f. 科目取得状況

8/9名

**6 循環器管理関連（一時的ペースメーカー・PCPS等）I****a. スタッフ**

指導者 百村伸一、藤田英雄、坂倉建一、和田 浩、星出 聰、相澤 啓

指導補助者 八木橋智子、草浦理恵、小久保領、村上礼子、八木街子

**b. 学習目的**

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法を学習する。

**c. 時間数**

22時間（11回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

**f. 科目取得状況**

0/0名

**7 循環器管理関連（一時的ペースメーカー・PCPS等）II****a. スタッフ**

指導者 百村伸一、藤田英雄、坂倉建一、和田 浩、星出 聰、相澤 啓

指導補助者 八木橋智子、草浦理恵、小久保領、村上礼子、八木街子

**b. 学習目的**

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法・態度を習得する。

**c. 時間数**

24時間（10日間）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

観察評価

**f. 科目取得状況**

0/0名

## 8 胸腔ドレーン管理関連 I

### a. スタッフ

指導者 遠藤俊輔、坪地宏嘉、手塚憲志、相澤 啓  
指導補助者 梶原絢子、村上礼子、八木街子

### b. 学習目的

胸腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する。  
胸腔ドレーン低圧胸腔内持続吸引中の設定・変更を安全に、かつ適切に実施するための基本的な知識・方法を学習する。

### c. 時間数

18時間（9回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

最終単元において、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

### f. 科目取得状況

0/0名

## 9 胸腔ドレーン管理関連 II

### a. スタッフ

指導者 遠藤俊輔、坪地宏嘉、手塚憲志、相澤 啓  
指導補助者 梶原絢子、村上礼子、八木街子

### b. 学習目的

胸腔ドレーンを安全、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法・態度を学習する。  
低圧胸腔内持続吸引装置の安全、かつ適切な設定調整のための基本的な手技・態度を学習する。

### c. 時間数

12時間（5日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

観察評価

### f. 科目取得状況

0/0名

**10 腹腔ドレーン管理関連 I****a. スタッフ**

指導者 力山敏樹、宮倉安幸、齊藤正昭、倉科憲太郎、齋藤 心

指導補助者 大島美津子、村上礼子、鈴木美津枝

**b. 学習目的**

腹腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する。

**c. 時間数**

10時間（5回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

最終単元において、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

**f. 科目取得状況**

0/0名

**11 腹腔ドレーン管理関連 II****a. スタッフ**

指導者 力山敏樹、宮倉安幸、齊藤正昭、倉科憲太郎、齋藤 心

指導補助者 大島美津子、村上礼子、鈴木美津枝

**b. 学習目的**

腹腔ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および手技・態度を習得する。

**c. 時間数**

12時間（5日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

観察評価：病棟実習では指導者から観察評価を受ける。

**f. 科目取得状況**

0/0名

## 12 ろう孔管理 I

### a. スタッフ

指導者 細谷好則、倉科憲太郎、齋藤 心、小野 滋、馬場勝尚、力山敏樹、宮倉安幸、兼田裕司  
指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、清水みどり、吉澤利恵、黒田光恵、佐藤敏子、大島美津子

### b. 学習目的

胃ろう、腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを安全に交換・管理するための基礎的な知識および方法を学習する。

### c. 時間数

10時間（5回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

6/6名

## 13 ろう孔管理 II

### a. スタッフ

指導者 細谷好則、倉科憲太郎、齋藤 心、小野 滋、馬場勝尚、力山敏樹、宮倉安幸、兼田裕司  
指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、清水みどり、吉澤利恵、黒田光恵、佐藤敏子、大島美津子

### b. 学習目的

胃ろう、腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを交換および管理するための基本的な知識、判断と手技を修得する。

### c. 時間数

15時間（5日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

OSCE

観察評価：外来・病棟実習中に対象者の了解を経て、カテーテル・ボタン交換に関する評価基準の確認を指導者より受ける。

### f. 科目取得状況

6/6名

**14 ろう孔管理（膀胱ろうカテーテルの管理）Ⅲ****a. スタッフ**

**指導者** 森田辰男、黒川真輔、宮川友明、鷺野 聰

**指導補助者** 村上礼子、鈴木美津枝、田村敦子、田口深雪、大島美津子

**b. 学習目的**

1. ろう孔造設に関連する病態から的確に判断するための根拠と方法を学習する。
2. 膀胱ろうカテーテルを安全に管理するための基本的な知識および方法を学習する。

**c. 時間数**

10時間（5回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

試験（毎回の事後テストの内容を筆記試験に充当させる）

評価の時期：講義終了後

**f. 科目取得状況**

6/6名

**15 ろう孔管理（膀胱ろうカテーテルの管理）Ⅳ****a. スタッフ**

**指導者** 森田辰男、黒川真輔、宮川友明、鷺野 聰

**指導補助者** 村上礼子、鈴木美津枝、田村敦子、田口深雪、大島美津子

**b. 学習目的**

ろう孔管理Ⅲで学んだ知識とプロトコールに基づき、ろう孔管理技術の基本を学習する。

**c. 時間数**

15時間（5日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

OSCE

観察評価：外来実習中に対象者の了解を得て、評価基準の確認を指導者より受ける。

**f. 科目取得状況**

6/6名

## 16 栄養に係るカテーテル管理：中心静脈カテーテルの抜去 I

### a. スタッフ

指導者 鈴川正之、相澤 啓、讚井将満、牧野 淳

指導補助者 村上礼子、八木街子、弘田智香、八木橋智子

### b. 学習目的

中心静脈カテーテルの目的・管理・リスクを学び、安全に中心静脈カテーテルを抜去する方法を学習する。

### c. 時間数

6時間（3回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

4/4名

## 17 栄養に係るカテーテル管理：中心静脈カテーテルの抜去 II

### a. スタッフ

指導者 鈴川正之、相澤 啓、讚井将満、牧野 淳

指導補助者 村上礼子、八木街子、弘田智香、八木橋智子

### b. 学習目的

中心静脈カテーテル抜去における評価と手技を修得する。

### c. 時間数

12時間（5日間）

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

観察評価（DOPS）を用いて評価する。

### f. 科目取得状況

4/4名

**18 PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）の挿入Ⅰ****a. スタッフ**

指導者 布宮 伸、鯉沼俊貴、大嶺 謙、賀古真一、和田英則  
 指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、横山由美、山本真由美、大木海美

**b. 学習目的**

PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）挿入の根拠と方法を学習する。

**c. 時間数**

6時間（3回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

最終回に e-learning による筆記試験

**f. 科目取得状況**

5/6名

**19 PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）の挿入Ⅱ****a. スタッフ**

指導者 大嶺 謙、賀古真一、和田英則、布宮 伸、鯉沼俊貴  
 指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、横山由美、山本真由美、大木海美

**b. 学習目的**

PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）を安全に挿入・管理するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

**c. 時間数**

15時間（5日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

3日目午前に OSCE による実技評価、最終日までに観察評価

**f. 科目取得状況**

5/6名

## 20 創傷管理関連 褥瘡 I

### a. スタッフ

指導者 前川武雄、出光俊郎、山田朋子

指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、本田芳香、飯塚由美子、太田信子、大島美津子

### b. 学習目的

褥瘡および創傷の病態から的確に判断するための根拠と方法を学習する。

### c. 時間数

27時間（14回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

27時間（14回）

### f. 科目取得状況

7/8名

## 21 創傷管理関連 褥瘡 II

### a. スタッフ

指導者 前川武雄、出光俊郎、山田朋子

指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、本田芳香、飯塚由美子、太田信子、大島美津子

### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に創傷管理を実践するための慢性期褥瘡治療管理および陰圧閉鎖療法の方法について実習を通して習得する。

### c. 時間数

45時間（10日間）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）、実習

### e. 評価方法

OSCE（壊死組織除去のみ）、観察評価（（壊死組織除去、陰圧閉鎖療法）

### f. 科目取得状況

7/8名

**22 創部ドレーン管理関連 I****a. スタッフ**

**指導者** 安達秀雄、山口敦司、堀大治郎、倉科憲太郎、齋藤 心、相澤 啓、手塚憲志  
**指導補助者** 村上礼子、鈴木美津枝、大島美津子

**b. 学習目的**

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法を学習する

**c. 時間数**

6時間（3回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

1/1名

**23 創部ドレーン管理関連 II****a. スタッフ**

**指導者** 安達秀雄、山口敦司、堀大治郎、倉科憲太郎、齋藤 心、相澤 啓、手塚憲志  
**指導補助者** 村上礼子、鈴木美津枝、大島美津子

**b. 学習目的**

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法・態度を修得する。

**c. 時間数**

9時間（3日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

観察評価

**f. 科目取得状況**

1/1名

## 24 動脈血液ガス分析 I

### a. スタッフ

指導者 石黒芳紀、梶浦 明、大塚祐史、鈴川正之、山下圭輔、米川 力、布宮 伸、小山寛介、鯉沼俊貴  
指導補助者 八木橋智子、村上礼子、鈴木美津枝

### b. 学習目的

動脈血液を安全に採血し、留置ならびに管理するための基本的な知識および方法を学習する。

### c. 時間数

16時間（8回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

11/11名

## 25 動脈血液ガス分析 II

### a. スタッフ

指導者 石黒芳紀、梶浦 明、大塚祐史、鈴川正之、山下圭輔、米川 力、布宮 伸、小山寛介、鯉沼俊貴  
指導補助者 八木橋智子、村上礼子、鈴木美津枝

### b. 学習目的

動脈血液を安全に採血するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

### c. 時間数

15時間（5日間）

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

実技試験（OSCE）・観察評価

### f. 科目取得状況

11/11名

**26 透析管理 I****a. スタッフ**

指導者 森下義幸、大河原晋、星野太郎、齋藤 修

指導補助者 佐竹 晃、安藤勝信、内田隆行、村上礼子、鈴木美津枝、松岡 謙

**b. 学習目的**

血液透析器又は血液透析濾過器を安全に操作及び管理を行うための基本的な知識および方法を学習する

**c. 時間数**

16時間（8回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

3/3名

**27 透析管理 II****a. スタッフ**

指導者 森下義幸、大河原晋、星野太郎、齋藤 修

指導補助者 佐竹 晃、安藤勝信、内田隆行、村上礼子、鈴木美津枝、松岡 謙

**b. 学習目的**

急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理するための基本的な知識、判断と手技を修得する

**c. 時間数**

12時間（5日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

観察評価

**f. 科目取得状況**

3/3名

## 28 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整 I

### a. スタッフ

指導者 石橋 俊、倉科憲太郎、鈴川正之、賀古真一、和田英則

指導補助者 村上礼子、浜端賢次、八木街子、古内三基子、釜井聰子、荒川昌史、中川温美、長谷部忠史

### b. 学習目的

栄養評価を用いて低栄養状態がアセスメントでき、高カロリー輸液の適応と副作用・リスクについて学習する。

### c. 時間数

10時間（5回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

4/4名

## 29 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整 II

### a. スタッフ

指導者 石橋 俊、倉科憲太郎、鈴川正之、賀古真一、和田英則

指導補助者 村上礼子、浜端賢次、八木街子、古内三基子、釜井聰子、荒川昌史、中川温美、長谷部忠史

### b. 学習目的

低栄養状態と高カロリー輸液のリスクをアセスメントし、適切な高カロリー輸液の選択と調整を学習する。

### c. 時間数

9時間（3日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

観察評価（DOPS を用いて評価する）

### f. 科目取得状況

4/4名

**30 脱水と補液（脱水の程度の判断と補液による補正）I****a. スタッフ**

指導者 鈴川正之、倉科憲太郎、森下義幸、大河原晋、星野太郎

指導補助者 村上礼子、浜端賢次、八木街子、弘田智香、釜井聰子、荒川昌史、中川温美、長谷部忠史

**b. 学習目的**

脱水のアセスメントを行い、脱水の程度に合わせた補液の補正を学習する。

**c. 時間数**

10時間（5回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

4/4名

**31 脱水と補液（脱水の程度の判断と補液による補正）II****a. スタッフ**

指導者 鈴川正之、倉科憲太郎、森下義幸、大河原晋、星野太郎

指導補助者 村上礼子、浜端賢次、八木街子、弘田智香、釜井聰子、荒川昌史、中川温美、長谷部忠史

**b. 学習目的**

脱水の適切な評価ができ、脱水の程度に応じた補液による補正を学習する。

**c. 時間数**

9時間（3日間）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

観察評価（DOPS）

**f. 科目取得状況**

4/4名

## 32 感染徴候時の臨時薬剤の投与 I (特定行為：感染に係る薬剤投与関連)

### a. スタッフ

指導者 森澤雄司、小山信一郎、長井良昭

指導補助者 村上礼子、野々山未希子、八木街子、渡辺美智代、大友慎也、佐々木一雅、水上由美子、立石直人、長谷部忠史

### b. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

### c. 時間数

39時間（20回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）、演習

### e. 評価方法

筆記試験（中間、最終の2回行う）

### f. 科目取得状況

1/1名

## 33 感染徴候時の臨時薬剤の投与 II (特定行為：感染に係る薬剤投与関連)

### a. スタッフ

指導者 森澤雄司、小山信一郎、長井良昭

指導補助者 村上礼子、野々山未希子、八木街子、渡辺美智代、大友慎也、佐々木一雅、水上由美子、立石直人、長谷部忠史

### b. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

### c. 時間数

24時間（10日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

実習の観察評価

### f. 科目取得状況

1/1名

**34 インスリン投与量の調整 I****a. スタッフ**

**指導者** 石橋 俊、岡田健太、原 一雄、吉田昌史

**指導補助者** 村上礼子、鈴木美津枝、長谷川直人、馬場千恵子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、羽鳥智子、長谷部忠史

**b. 学習目的**

患者特性に応じた血糖コントロールを行うためのインスリン投与量の調整の根拠と方法を理解する。

**c. 時間数**

24時間（12回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

0/0名

**35 インスリン投与量の調整 II****a. スタッフ**

**指導者** 石橋 俊、岡田健太、原 一雄、吉田昌史

**指導補助者** 村上礼子、鈴木美津枝、長谷川直人、馬場千恵子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、羽鳥智子、長谷部忠史

**b. 学習目的**

インスリン投与量の調整が必要な患者の病態および心理社会的特性を捉え、医師の包括的指示のもと、患者に安全かつ効果的な方法でインスリン投与量の調整を行うための実践的知識と技術を習得する。

**c. 時間数**

12時間（5日間）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

観察評価 課題レポート

**f. 科目取得状況**

0/0名

## 36 持続点滴投与中薬剤（降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液）の病態に応じた調整Ⅰ

### a. スタッフ

指導者 莖尾七臣、星出 聰、百村伸一、藤田英雄、坂倉建一、和田 浩

指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、福田順子、谷島雅子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、梶原絢子、長谷部忠史

### b. 学習目的

持続点滴投与中薬剤（降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液）の病状に応じた調整に必要な知識と技術を学習する。

### c. 時間数

48時間（24回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験を行う。

### f. 科目取得状況

2/2名

## 37 持続点滴投与中薬剤（降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液）の病態に応じた調整Ⅱ

### a. スタッフ

指導者 莖尾七臣、星出 聰、百村伸一、藤田英雄、坂倉建一、和田 浩

指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、福田順子、谷島雅子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、梶原絢子、長谷部忠史

### b. 学習目的

持続点滴投与中薬剤（降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液）の病態に応じた調整について、実施の可否の判断、実施・報告の一連のプロセスについて学習する。

### c. 時間数

12時間（5日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

臨床実習中の観察評価、実習終了時のレポート

### f. 科目取得状況

2/2名

**38 精神科薬物療法と看護 I (精神・神経症状にかかる薬物投与関連)****a. スタッフ**

**指導者** 大塚公一郎、須田史朗、塙田勝利、齋藤慎之介、安田 学、佐藤伸秋、嶋崎晴雄、岡島美朗

**指導補助者** 村上礼子、鈴木美津枝、永井優子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、長谷部忠史

**b. 学習目的**

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤（抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬）の投与に関する判断に必要なアセスメントとケアについて理解する。

**c. 時間数**

46時間（23回）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

最終回の筆記試験で60%以上の成績を修めた者に単位を認定する。（ルーブリック参照）

**f. 科目取得状況**

1/1名

**39 精神科薬物療法と看護 II (精神・神経症状にかかる薬物投与関連)****a. スタッフ**

**指導者** 大塚公一郎、須田史朗、塙田勝利、齋藤慎之介、安田 学、佐藤伸秋、嶋崎晴雄、岡島美朗

**指導補助者** 村上礼子、鈴木美津枝、永井優子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、長谷部忠史

**b. 学習目的**

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤（抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬）の投与に関する判断ができる。

**c. 時間数**

12時間（5日間）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

4/5以上出席して、各回の実習に関する観察評価および作成したレポートの評価をうけ、最終回の評価面接時に、精神・神経症状にかかる抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬の臨時投与を安全に実施することができることを確認する（ルーブリック参照）。

**f. 科目取得状況**

1/1名

## 40 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施Ⅰ

### a. スタッフ

指導者 神田善伸、大嶺 謙、村田 哲、藤井博文、賀古真一、和田英則

指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、小原 泉、山本真由美、奥田泰考、大木海美、長谷部忠史

### b. 学習目的

抗癌剤等の皮膚漏出予防を含めた安全な取扱いと、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための根拠と方法を学習する。

### c. 時間数

28時間（14回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

0/0名

## 41 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施Ⅱ

### a. スタッフ

指導者 神田善伸、大嶺 謙、村田 哲、藤井博文、賀古真一、和田英則

指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、小原 泉、山本真由美、奥田泰考、大木海美、長谷部忠史

### b. 学習目的

抗がん剤の皮膚漏出を程度・状況を判断し、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための実践的技術を学習する。

### c. 時間数

12時間（5日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

臨床実習中の観察評価、実習終了時のレポート

### f. 科目取得状況

0/0名

**10月期共通科目****1 臨床推論／フィジカルアセスメント I****a. スタッフ**

指導者 松村正巳、中村剛史、鈴木義彦

指導補助者 村上礼子、八木街子

**b. 学習目的**

多様な臨床現場において対象者が持つ問題を改善又は解決するために、臨床推論の概念や症状ごとの臨床推論過程（フィジカルアセスメント含む）について学修する。

**c. 時間数**

34時間（17回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

**f. 科目取得状況**

32/34名

**2 臨床推論／フィジカルアセスメント II****a. スタッフ**

指導者 松村正巳、中村剛史、鈴木義彦

指導補助者 村上礼子、八木街子

**b. 学習目的**

対象者が持つ問題を改善又は解決するための診断プロセス・臨床推論に必要な各種臨床検査、画像検査の原理原則について学修する。

**c. 時間数**

26時間（13回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

**f. 科目取得状況**

29/33名

### 3 病態生理／疾病論 I

#### a. スタッフ

指導者 北田志郎

指導補助者 春山早苗、平尾温司、関山友子

#### b. 学習目的

解剖学、生理学および病態学の原則を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的かつ迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

#### c. 時間数

42時間（21回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

31/35名

### 4 病態生理／疾病論 II

#### a. スタッフ

指導者 北田志郎

指導補助者 春山早苗、平尾温司、関山友子

#### b. 学習目的

臨床場面において日常的によくみられる主要疾患の病態および治療を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態の変化や疾患および必要となる治療を包括的迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

#### c. 時間数

54時間（27回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

32/36名

**5 臨床薬理学****a. スタッフ**

指導者 大塚公一郎

指導補助者 江角伸吾、須藤俊明、村上礼子

**b. 学習目的**

臨床薬理学の基礎的知識を学習する。

薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理の向上を図るための知識と技術を学ぶ。

代表的な薬物療法について理解し、臨床場面で安全に使用するのに必要な知識を学習する。

**c. 時間数**

42時間（21回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

単元ごとに事後テストを行い、100点満点をもって、次の単元に進む。

最終単元修了後、修了試験（筆記試験）を受験する。修了試験は100点満点で、60点以上の獲得をもって修了を設定し、科目の単位が獲得できる。

**f. 科目取得状況**

29/36名

**6 医療安全学****a. スタッフ**

指導者 新保昌久、遠山信幸

指導補助者 川上 勝、淺田義和、竹野井さとみ、亀森康子

**b. 学習目的**

安全で質の高い特定行為を実施する上で必要な知識や考え方を身につける。

**c. 時間数**

24時間（12回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）、演習

**e. 評価方法**

筆記試験（最終回）

小テストまたは課題レポート（各回）

**f. 科目取得状況**

33/36名

## 7 特定行為と手順書

### a. スタッフ

指導者 新保昌久

指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、大柴幸子

### b. 学習目的

多様な臨床場面において、特定行為関連法規を踏まえ、特定行為の手順書を作成・活用・評価するための実践課程を理解し、必要な特定行為を安全に実践する能力を学修する。

### c. 時間数

30時間（15回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

32/37名

## 8 特定行為と基礎実習 I

### a. スタッフ

指導者 松村正巳、中村剛史、鈴木義彦、大塚公一郎、北田志郎

指導補助者 春山早苗、村上礼子、鈴木美津枝、川上 勝、平尾温司、八木街子、関山友子、江角伸吾、浅田義和、須藤俊明

### b. 学習目的

チーム医療として実践するために必要な基礎的な臨床診断プロセスや診察技術について演習・実習を通して修得する。

### c. 時間数

38時間（演習10回（うち試験1回）+実習3日間）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

e ラーニング演習の最終回は主に展開してきた事例検討の試験を行う。

集合実習の事例展開の最終日に観察評価を行う。合格できるまで試験を受ける。

### f. 科目取得状況

31/38名

## 9 特定行為基礎実習Ⅱ

### a. スタッフ

指導者 松村正巳、石川鎮清、畠山修司、松山 泰、石川由紀子、山本 祐、隈部綾子、中村剛史、新保昌久、遠山信幸、菅原 齊、藤田英雄、崎山快夫、眞嶋浩聰、賀古真一、豊島秀男、寺井千尋、森下義幸、小山信一郎  
指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、八木街子

### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に特定行為を実践するための診察技術や臨床診断の基礎的能力を習得する。

### c. 時間数

25時間（7日間）

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

観察評価：病棟・外来実習中に対象者の了解を経て、身体診察、医療面接、多職種との調整などの評価基準の確認を指導者より受ける。

### f. 科目取得状況

31/38名

## 10月期区分別科目

### 1 呼吸器関連 気道確保 I

#### a. スタッフ

指導者 讃井将満、塙塚潤二、川岸利臣、石黒芳紀、大塚祐史、布宮 伸、方山真朱、小山寛介

指導補助者 村上礼子、八木街子、茂呂悦子、神山淳子、八巻 均、荒井和美、八木橋智子、草浦理恵

#### b. 学習目的

チーム医療の中で経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

#### c. 時間数

8時間（4回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

8/9名

### 2 呼吸器関連 気道確保 II

#### a. スタッフ

指導者 讃井将満、塙塚潤二、川岸利臣、石黒芳紀、大塚祐史、布宮 伸、方山真朱、小山寛介

指導補助者 村上礼子、八木街子、茂呂悦子、神山淳子、八巻 均、荒井和美、八木橋智子、草浦理恵

#### b. 学習目的

チーム医療の中で安全にバッグバルブマスク（BVM）を用いた用手換気および経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

#### c. 時間数

15時間（5日間）

#### d. 研修方法

実習

#### e. 評価方法

観察試験：病棟実習中に対象者の了解を得て、身体診察、医療面接、他職種との調整などに関する評価基準をもとに指導医より確認をうける。 実技試験 OSCE

#### f. 科目取得状況

8/9名

**3 呼吸器関連 人工呼吸療法 I****a. スタッフ**

**指導者** 讃井将満、牧野 淳、布宮 伸、玉井謙次、方山真朱、小山寛介

**指導補助者** 村上礼子、八木街子、八木橋智子、草浦理恵、茂呂悦子、神山淳子、八巻 均、荒井和美

**b. 学習目的**

チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV（非侵襲的陽圧換気療法）時のモード設定条件の変更を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸管理下の鎮痛・鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

**c. 時間数**

39時間（20回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

8/9名

**4 呼吸器関連 人工呼吸療法 II****a. スタッフ**

**指導者** 神山淳子、八巻 均、荒井和美

**b. 学習目的**

チーム医療の中で安全に人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV（非侵襲的陽圧換気療法）時のモード設定条件の変更を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

チーム医療の中で安全に人工呼吸管理下の鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

**c. 時間数**

24時間（10日）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

観察試験：病棟実習中に対象者の了解を得て、人工呼吸療法に関する評価基準をもとに指導医より評価をうける

**f. 科目取得状況**

8/9名

## 5 呼吸器関連 長期呼吸療法

### a. スタッフ

指導者 中村謙一、小野 滋、馬場勝尚、讚井将満、牧野 淳、布宮 伸、玉井謙次、方山真朱、  
小山寛介

指導補助者 村上礼子、里光やよい、黒田光恵、茂呂悦子、八木橋智子、草浦理恵

### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に気管カニューレの交換を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

### c. 時間数

21時間（講義5回+実習3日間）

### d. 研修方法

講義、実習

### e. 評価方法

筆記試験、実技試験(OSCE)

観察試験：病棟実習中に対象者の了解を得て、気管カニューレの交換に関する評価基準をもとに指導医より確認をうける。

### f. 科目取得状況

8/9名

**6 循環器管理関連（一時的ペースメーカー・PCPS等）I****a. スタッフ**

指導者 百村伸一、藤田英雄、坂倉建一、和田 浩、星出 聰、相澤 啓

指導補助者 八木橋智子、草浦理恵、小久保領、村上礼子、八木街子

**b. 学習目的**

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法を学習する。

**c. 時間数**

22時間（11回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

**f. 科目取得状況**

2/4名

**7 循環器管理関連（一時的ペースメーカー・PCPS等）II****a. スタッフ**

指導者 百村伸一、藤田英雄、坂倉建一、和田 浩、星出 聰、相澤 啓

指導補助者 八木橋智子、草浦理恵、小久保領、村上礼子、八木街子

**b. 学習目的**

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法・態度を習得する。

**c. 時間数**

24時間（10日間）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

観察評価

**f. 科目取得状況**

2/4名

## 8 胸腔ドレーン管理関連 I

### a. スタッフ

指導者 遠藤俊輔、坪地宏嘉、手塚憲志、相澤 啓  
指導補助者 梶原絢子、村上礼子、八木街子

### b. 学習目的

胸腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する  
胸腔ドレーン低圧胸腔内持続吸引中の設定・変更を安全に、かつ適切に実施するための基本的な知識・方法を学習する。

### c. 時間数

18時間（9回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

最終単元において、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

### f. 科目取得状況

2/3名

## 9 胸腔ドレーン管理関連 II

### a. スタッフ

指導者 遠藤俊輔、坪地宏嘉、手塚憲志、相澤 啓  
指導補助者 梶原絢子、村上礼子、八木街子

### b. 学習目的

胸腔ドレーンを安全、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法・態度を学習する。  
低压胸腔内持続吸引装置の安全、かつ適切な設定調整のための基本的な手技・態度を学習する。

### c. 時間数

12時間（5日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

観察評価

### f. 科目取得状況

2/3名

**10 腹腔ドレーン管理関連 I****a. スタッフ**

指導者 力山敏樹、宮倉安幸、齊藤正昭、倉科憲太郎、齋藤 心

指導補助者 大島美津子、村上礼子、鈴木美津枝

**b. 学習目的**

腹腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する。

**c. 時間数**

10時間（5回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

最終単元において、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

**f. 科目取得状況**

2/2名

**11 腹腔ドレーン管理関連 II****a. スタッフ**

指導者 力山敏樹、宮倉安幸、齊藤正昭、倉科憲太郎、齋藤 心

指導補助者 大島美津子、村上礼子、鈴木美津枝

**b. 学習目的**

腹腔ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および手技・態度を習得する。

**c. 時間数**

12時間（5日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

観察評価：病棟実習では指導者から観察評価を受ける。

**f. 科目取得状況**

2/2名

## 12 ろう孔管理 I

### a. スタッフ

指導者 細谷好則、倉科憲太郎、齋藤 心、小野 滋、馬場勝尚、力山敏樹、宮倉安幸、兼田裕司  
指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、清水みどり、吉澤利恵、黒田光恵、佐藤敏子、大島美津子

### b. 学習目的

胃ろう、腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを安全に交換・管理するための基礎的な知識および方法を学習する。

### c. 時間数

10時間（5回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

5/5名

## 13 ろう孔管理 II

### a. スタッフ

指導者 細谷好則、倉科憲太郎、齋藤 心、小野 滋、馬場勝尚、力山敏樹、宮倉安幸、兼田裕司  
指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、清水みどり、吉澤利恵、黒田光恵、佐藤敏子、大島美津子

### b. 学習目的

胃ろう、腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを交換および管理するための基本的な知識、判断と手技を修得する。

### c. 時間数

15時間（5日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

OSCE

観察評価：外来・病棟実習中に対象者の了解を経て、カテーテル・ボタン交換に関する評価基準の確認を指導者より受ける。

### f. 科目取得状況

5/5名

**14 ろう孔管理（膀胱ろうカテーテルの管理）Ⅲ****a. スタッフ**

指導者 森田辰男、黒川真輔、宮川友明、鷺野 聰

指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、田村敦子、田口深雪、大島美津子

**b. 学習目的**

1. ろう孔造設に関連する病態から的確に判断するための根拠と方法を学習する。
2. 膀胱ろうカテーテルを安全に管理するための基本的な知識および方法を学習する。

**c. 時間数**

10時間（5回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

試験（毎回の事後テストの内容を筆記試験に充当させる）

評価の時期：講義終了後

**f. 科目取得状況**

5/5名

**15 ろう孔管理（膀胱ろうカテーテルの管理）Ⅳ****a. スタッフ**

指導者 森田辰男、黒川真輔、宮川友明、鷺野 聰

指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、田村敦子、田口深雪、大島美津子

**b. 学習目的**

ろう孔管理Ⅲで学んだ知識とプロトコールに基づき、ろう孔管理技術の基本を学習する。

**c. 時間数**

15時間（5日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

OSCE

観察評価：外来実習中に対象者の了解を得て、評価基準の確認を指導者より受ける。

**f. 科目取得状況**

5/5名

## 16 栄養に係るカテーテル管理：中心静脈カテーテルの抜去 I

### a. スタッフ

指導者 鈴川正之、相澤 啓、讚井将満、牧野 淳

指導補助者 村上礼子、八木街子、弘田智香、八木橋智子

### b. 学習目的

中心静脈カテーテルの目的・管理・リスクを学び、安全に中心静脈カテーテルを抜去する方法を学習する。

### c. 時間数

6時間（3回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

3/3名

## 17 栄養に係るカテーテル管理：中心静脈カテーテルの抜去 II

### a. スタッフ

指導者 鈴川正之、相澤 啓、讚井将満、牧野 淳

指導補助者 村上礼子、八木街子、弘田智香、八木橋智子

### b. 学習目的

中心静脈カテーテル抜去における評価と手技を修得する。

### c. 時間数

12時間（5日間）

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

観察評価（DOPS）を用いて評価する。

### f. 科目取得状況

3/3名

**18 PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）の挿入Ⅰ****a. スタッフ**

指導者 布宮 伸、鯉沼俊貴、大嶺 謙、賀古真一、和田英則  
 指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、横山由美、山本真由美、大木海美

**b. 学習目的**

PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）挿入の根拠と方法を学習する。

**c. 時間数**

6時間（3回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

最終回に e-learning による筆記試験

**f. 科目取得状況**

2/2名

**19 PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）の挿入Ⅱ****a. スタッフ**

指導者 大嶺 謙、賀古真一、和田英則、布宮 伸、鯉沼俊貴  
 指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、横山由美、山本真由美、大木海美

**b. 学習目的**

PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）を安全に挿入・管理するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

**c. 時間数**

15時間（5日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

3日目午前に OSCE による実技評価、最終日までに観察評価

**f. 科目取得状況**

2/2名

## 20 創傷管理関連 褥瘡 I

### a. スタッフ

指導者 前川武雄、出光俊郎、山田朋子

指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、本田芳香、飯塚由美子、太田信子、大島美津子

### b. 学習目的

褥瘡および創傷の病態から的確に判断するための根拠と方法を学習する。

### c. 時間数

27時間（14回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

27時間（14回）

### f. 科目取得状況

6/6名

## 21 創傷管理関連 褥瘡 II

### a. スタッフ

指導者 前川武雄、出光俊郎、山田朋子

指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、本田芳香、飯塚由美子、太田信子、大島美津子

### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に創傷管理を実践するための慢性期褥瘡治療管理および陰圧閉鎖療法の方法について実習を通して習得する。

### c. 時間数

45時間（10日間）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）、実習

### e. 評価方法

OSCE（壊死組織除去のみ）、観察評価（（壊死組織除去、陰圧閉鎖療法）

### f. 科目取得状況

6/6名

**22 創部ドレーン管理関連 I****a. スタッフ**

**指導者** 安達秀雄、山口敦司、堀大治郎、倉科憲太郎、齋藤 心、相澤 啓、手塚憲志  
**指導補助者** 村上礼子、鈴木美津枝、大島美津子

**b. 学習目的**

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法を学習する

**c. 時間数**

6時間（3回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

2/3名

**23 創部ドレーン管理関連 II****a. スタッフ**

**指導者** 安達秀雄、山口敦司、堀大治郎、倉科憲太郎、齋藤 心、相澤 啓、手塚憲志  
**指導補助者** 村上礼子、鈴木美津枝、大島美津子

**b. 学習目的**

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法・態度を修得する。

**c. 時間数**

9時間（3日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

観察評価

**f. 科目取得状況**

2/3名

## 24 動脈血液ガス分析 I

### a. スタッフ

指導者 石黒芳紀、梶浦 明、大塚祐史、鈴川正之、山下圭輔、米川 力、布宮 伸、小山寛介、鯉沼俊貴  
指導補助者 八木橋智子、村上礼子、鈴木美津枝

### b. 学習目的

動脈血液を安全に採血し、留置ならびに管理するための基本的な知識および方法を学習する。

### c. 時間数

16時間（8回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

13/13名

## 25 動脈血液ガス分析 II

### a. スタッフ

指導者 石黒芳紀、梶浦 明、大塚祐史、鈴川正之、山下圭輔、米川 力、布宮 伸、小山寛介、鯉沼俊貴  
指導補助者 八木橋智子、村上礼子、鈴木美津枝

### b. 学習目的

動脈血液を安全に採血するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

### c. 時間数

15時間（5日間）

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

実技試験（OSCE）・観察評価

### f. 科目取得状況

13/13名

**26 透析管理 I****a. スタッフ**

指導者 森下義幸、大河原晋、星野太郎、齋藤 修

指導補助者 佐竹 晃、安藤勝信、内田隆行、村上礼子、鈴木美津枝、松岡 謙

**b. 学習目的**

血液透析器又は血液透析濾過器を安全に操作及び管理を行うための基本的な知識および方法を学習する

**c. 時間数**

16時間（8回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

0/0名

**27 透析管理 II****a. スタッフ**

指導者 森下義幸、大河原晋、星野太郎、齋藤 修

指導補助者 佐竹 晃、安藤勝信、内田隆行、村上礼子、鈴木美津枝、松岡 謙

**b. 学習目的**

急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理するための基本的な知識、判断と手技を修得する

**c. 時間数**

12時間（5日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

観察評価

**f. 科目取得状況**

0/0名

## 28 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整 I

### a. スタッフ

指導者 石橋 俊、倉科憲太郎、鈴川正之、賀古真一、和田英則

指導補助者 村上礼子、浜端賢次、八木街子、古内三基子、釜井聰子、荒川昌史、中川温美、長谷部忠史

### b. 学習目的

栄養評価を用いて低栄養状態がアセスメントでき、高カロリー輸液の適応と副作用・リスクについて学習する。

### c. 時間数

10時間（5回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

11/11名

## 29 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整 II

### a. スタッフ

指導者 石橋 俊、倉科憲太郎、鈴川正之、賀古真一、和田英則

指導補助者 村上礼子、浜端賢次、八木街子、古内三基子、釜井聰子、荒川昌史、中川温美、長谷部忠史

### b. 学習目的

低栄養状態と高カロリー輸液のリスクをアセスメントし、適切な高カロリー輸液の選択と調整を学習する。

### c. 時間数

9時間（3日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

観察評価（DOPS を用いて評価する）

### f. 科目取得状況

11/11名

**30 脱水と補液（脱水の程度の判断と補液による補正）I****a. スタッフ**

指導者 鈴川正之、倉科憲太郎、森下義幸、大河原晋、星野太郎

指導補助者 村上礼子、浜端賢次、八木街子、弘田智香、釜井聰子、荒川昌史、中川温美、長谷部忠史

**b. 学習目的**

脱水のアセスメントを行い、脱水の程度に合わせた補液の補正を学習する。

**c. 時間数**

10時間（5回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

11/11名

**31 脱水と補液（脱水の程度の判断と補液による補正）II****a. スタッフ**

指導者 鈴川正之、倉科憲太郎、森下義幸、大河原晋、星野太郎

指導補助者 村上礼子、浜端賢次、八木街子、弘田智香、釜井聰子、荒川昌史、中川温美、長谷部忠史

**b. 学習目的**

脱水の適切な評価ができ、脱水の程度に応じた補液による補正を学習する。

**c. 時間数**

9時間（3日間）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

観察評価（DOPS）

**f. 科目取得状況**

11/11名

## 32 感染徴候時の臨時薬剤の投与 I (特定行為：感染に係る薬剤投与関連)

### a. スタッフ

指導者 森澤雄司、小山信一郎、長井良昭

指導補助者 村上礼子、野々山未希子、八木街子、渡辺美智代、大友慎也、佐々木一雅、水上由美子、立石直人、長谷部忠史

### b. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

### c. 時間数

39時間（20回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）、演習

### e. 評価方法

筆記試験（中間、最終の2回行う）

### f. 科目取得状況

4/4名

## 33 感染徴候時の臨時薬剤の投与 II (特定行為：感染に係る薬剤投与関連)

### a. スタッフ

指導者 森澤雄司、小山信一郎、長井良昭

指導補助者 村上礼子、野々山未希子、八木街子、渡辺美智代、大友慎也、佐々木一雅、水上由美子、立石直人、長谷部忠史

### b. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

### c. 時間数

24時間（10日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

実習の観察評価

### f. 科目取得状況

4/4名

**34 インスリン投与量の調整 I****a. スタッフ**

**指導者** 石橋 俊、岡田健太、原 一雄、吉田昌史

**指導補助者** 村上礼子、鈴木美津枝、長谷川直人、馬場千恵子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、羽鳥智子、長谷部忠史

**b. 学習目的**

患者特性に応じた血糖コントロールを行うためのインスリン投与量の調整の根拠と方法を理解する。

**c. 時間数**

24時間（12回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

5/5名

**35 インスリン投与量の調整 II****a. スタッフ**

**指導者** 石橋 俊、岡田健太、原 一雄、吉田昌史

**指導補助者** 村上礼子、鈴木美津枝、長谷川直人、馬場千恵子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、羽鳥智子、長谷部忠史

**b. 学習目的**

インスリン投与量の調整が必要な患者の病態および心理社会的特性を捉え、医師の包括的指示のもと、患者に安全かつ効果的な方法でインスリン投与量の調整を行うための実践的知識と技術を習得する。

**c. 時間数**

12時間（5日間）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

観察評価 課題レポート

**f. 科目取得状況**

5/5名

## 36 持続点滴投与中薬剤（降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液）の病態に応じた調整Ⅰ

### a. スタッフ

指導者 莖尾七臣、星出 聰、百村伸一、藤田英雄、坂倉建一、和田 浩

指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、福田順子、谷島雅子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、梶原絢子、長谷部忠史

### b. 学習目的

持続点滴投与中薬剤（降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液）の病状に応じた調整に必要な知識と技術を学習する。

### c. 時間数

48時間（24回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験を行う。

### f. 科目取得状況

4/5名

## 37 持続点滴投与中薬剤（降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液）の病態に応じた調整Ⅱ

### a. スタッフ

指導者 莖尾七臣、星出 聰、百村伸一、藤田英雄、坂倉建一、和田 浩

指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、福田順子、谷島雅子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、梶原絢子、長谷部忠史

### b. 学習目的

持続点滴投与中薬剤（降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液）の病態に応じた調整について、実施の可否の判断、実施・報告の一連のプロセスについて学習する。

### c. 時間数

12時間（5日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

臨床実習中の観察評価、実習終了時のレポート

### f. 科目取得状況

4/5名

**38 精神科薬物療法と看護 I (精神・神経症状にかかる薬物投与関連)****a. スタッフ**

**指導者** 大塚公一郎、須田史朗、塙田勝利、齋藤慎之介、安田 学、佐藤伸秋、嶋崎晴雄、岡島美朗

**指導補助者** 村上礼子、鈴木美津枝、永井優子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、長谷部忠史

**b. 学習目的**

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤（抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬）の投与に関する判断に必要なアセスメントとケアについて理解する。

**c. 時間数**

46時間（23回）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

最終回の筆記試験で60%以上の成績を修めた者に単位を認定する。（ルーブリック参照）

**f. 科目取得状況**

5/5名

**39 精神科薬物療法と看護 II (精神・神経症状にかかる薬物投与関連)****a. スタッフ**

**指導者** 大塚公一郎、須田史朗、塙田勝利、齋藤慎之介、安田 学、佐藤伸秋、嶋崎晴雄、岡島美朗

**指導補助者** 村上礼子、鈴木美津枝、永井優子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、長谷部忠史

**b. 学習目的**

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤（抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬）の投与に関する判断ができる。

**c. 時間数**

12時間（5日間）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

4/5以上出席して、各回の実習に関する観察評価および作成したレポートの評価をうけ、最終回の評価面接時に、精神・神経症状にかかる抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬の臨時投与を安全に実施することができることを確認する（ルーブリック参照）。

**f. 科目取得状況**

5/5名

## 40 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施Ⅰ

### a. スタッフ

指導者 神田善伸、大嶺 謙、村田 哲、藤井博文、賀古真一、和田英則

指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、小原 泉、山本真由美、奥田泰考、大木海美、長谷部忠史

### b. 学習目的

抗癌剤等の皮膚漏出予防を含めた安全な取扱いと、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための根拠と方法を学習する。

### c. 時間数

28時間（14回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

0/0名

## 41 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施Ⅱ

### a. スタッフ

指導者 神田善伸、大嶺 謙、村田 哲、藤井博文、賀古真一、和田英則

指導補助者 村上礼子、鈴木美津枝、小原 泉、山本真由美、奥田泰考、大木海美、長谷部忠史

### b. 学習目的

抗がん剤の皮膚漏出を程度・状況を判断し、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための実践的技術を学習する。

### c. 時間数

12時間（5日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

臨床実習中の観察評価、実習終了時のレポート

### f. 科目取得状況

0/0名

## 2) 研究報告

### 教職員

#### ●国際会議

- ・14th Asia Pacific Medical Education Conference (APMEC) 11–15 January 2017 in Singapore.  
M.S.Yagi, R.Murakami, M.Suzuki, Y.Asada, Y. Sekiyama.  
How to make e-learning successful using online discussion forums for nurses pertaining to specified medical acts in Japan. (e-poster)

#### ●国内発表

- ・第116回日本外科学会定期学術集会（2016年4月14～16日：大阪国際会議場／リーガロイヤルホテル大阪、大阪府大阪市）  
讃井将満. 集中治療における看護師特定行為教育のあり方（特別企画）
- ・第38回日本呼吸療法医学会学術集会（2016年7月16～17日：名古屋国際会議場、愛知県名古屋市）  
飯塚悠祐. 看護師特定行為としての人工呼吸器離脱：ここを見て欲しい（シンポジウム）
- ・日本ルーラルナーシング学会第11回学術集会（2016年9月3～4日：山梨大学医学部、山梨県中央市）  
鈴木美津枝、村上礼子、関山友子、江角慎吾、川上 勝、飯塚秀樹、石井慎一郎、淺田義和、春山早苗。  
ICTを活用した遠隔教育の推進に向けた教育方法の検討－特定行為に係る看護師の研修制度の受講生の思いに注目して－（口演）（日本ルーラルナーシング学会第11回学術集会抄録集；29, 2016）
- ・教育工学会第32回全国大会（2016年9月17～19日：大阪大学、大阪府豊中市）  
八木（佐伯）街子、村上礼子、鈴木美津枝、淺田義和、三科志穂、関山友子、川上 勝。特定行為に係る看護師の研修におけるフォーラム機能の利用状況と改善方法.（示説）（日本教育工学会第32回全国大会プログラム集；405-406, 2016）
- ・第4回シミュレーション医療教育学会学術大会（2016年9月24日：浜松医科大学、静岡県浜松市）  
村上礼子、鈴木美津枝、三科志穂、関山友子、江角慎吾. ICTを活用した演習からシミュレーション実習へ繋ぐ企画の評価と今後の課題.（示説）（優秀演題受賞）
- ・川上 勝、鈴木美津枝、三科志穂、清水みどり、福田順子、田村敦子、平尾厚司、村上礼子、春山早苗. プラットフォーム型シミュレータの開発.（示説）
- ・moodlemoot Japan2017（2017年2月17～19日：自治医科大学、栃木県下野市）  
八木（佐伯）街子、鈴木美津枝、淺田義和、村上礼子. 就労継続支援 型専門職遠隔教育における 学習者支援コンテンツの作成と利用（口演）
- ・川上 勝、淺田義和、村上礼子、関山友子、江角伸吾. 看護師特定行為研修における Moodle の活用について（LT）

#### ●講演

- ・平成28年度第1回看護師の特定行為研修に係る説明会（関東信越厚生局主催）（2016年4月22日：さいたま新都心合同庁舎1号館、埼玉県さいたま市）  
村上礼子. 看護師の特定行為研修の実際－指定研修機関委おける研修の実際－、（その他）
- ・第7回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会（2016年6月11～12日：浅草ビューホテル、台東区立浅草公会堂、台東区民会館、東京都台東区）  
村上礼子、春山早苗. 看護師特定行為研修の実際と地域医療における研修修了者への期待、（特別企画）
- ・日本看護歴史学会第30回学術集会（2016年8月20～21日：聖徳大学、千葉県松戸市）  
村上礼子. 特定行為研修の現状～指定研修機関の取り組み～（特別講演Ⅱ）
- ・日本地域看護学会第19回学術集会（2016年8月26～27日：自治医科大学、栃木県下野市）  
村上礼子. 看護師の特定行為研修と在宅医療の推進～2025年に向けた訪問看護師への期待～（指定

集会／ファシリテーター）

- ・群馬県看護師長協議会（平成28年度研修会（2016年11月17日：群馬県看護教育センター、群馬県前橋市）  
　　村上礼子、特定行為研修について
- ・第36回日本看護科学学会学術集会（2016年12月10～11日：東京国際フォーラム、東京都千代田区）  
　　村上礼子、春山早苗、国民の暮らしを支えるための看護のさらなる専門性の発揮～指定研修機関の取組と研修修了者の活躍～（第36回日本看護科学学会学術集会講演集、188、2016.）
- ・第1回滋賀医科大学特定行為フォーラム（2017年2月19日：ホテルボストンプラザ草津、滋賀県草津市）  
　　村上礼子、特定行為を学び、看護実践に活かすということ。
- ・第12回日本医学シミュレーション学会学術集会（2017年3月18～19日：ビックハート出雲、島根県出雲市）  
　　八木（佐伯）街子、これから目指すシミュレーション教育（シンポジウム）

## 研修生

### ● 国内発表

- ・第38回日本呼吸療法医学会学術集会（2016年7月16～17日：名古屋国際会議場、名古屋市）  
　　遠藤沙希、矢部友理、土屋留美、村上礼子、讚井将満、飯塚悠祐、八木橋智子、草浦理恵、春山早苗、簗田清次、呼吸器関連 看護師特定行為研修を終えて（口演）

### ● 指定集会

- ・日本地域看護学会第19回学術集会（2016年8月26～27日：自治医科大学、栃木県下野市）  
　　看護師の特定行為研修と在宅医療の推進～2025年に向けた訪問看護への期待～  
　　ファシリテーター：村上礼子 コメンテーター：太田秀樹  
　　話題提供者：澤田実紀、木下真理
- ・第36回日本看護科学学会学術集会（2016年12月10～11日：東京国際フォーラム、東京都千代田区）  
　　国民の暮らしを支えるための看護のさらなる専門性の発揮～指定研修機関の取組と研修修了者の活躍～  
　　話題提供者：加藤美佐子、神田美由紀。
- ・日本医療マネジメント学会第6回群馬県支部学術集会（2017年2月5日：群馬大学医学部昭和キャンパス、前橋市）  
　　シンポジウム2 在宅医療と看護師特定行為  
　　村松真吾、在宅医療と特定行為  
　　埇田真彰、特定行為実践に向けての現状と課題

3. 2017 年度



## 1) 教育内容

### 4月期共通科目

#### 1 臨床推論／フィジカルアセスメント I

##### a. スタッフ

指導者 松村正巳、中村剛史、鈴木義彦、村上礼子  
指導補助者 八木街子

##### b. 学習目的

多様な臨床現場において対象者が持つ問題を改善又は解決するために、臨床推論の概念や症状ごとの臨床推論過程（フィジカルアセスメント含む）について学修する。

##### c. 時間数

34時間（17回）

##### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

##### e. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

##### f. 科目取得状況

14/15名

#### 2 臨床推論／フィジカルアセスメント II

##### a. スタッフ

指導者 松村正巳、中村剛史、鈴木義彦、村上礼子  
指導補助者 八木街子

##### b. 学習目的

対象者が持つ問題を改善又は解決するための診断プロセス・臨床推論に必要な各種臨床検査、画像検査の原理原則について学修する。

##### c. 時間数

26時間（13回）

##### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

##### e. 評価方法

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

##### f. 科目取得状況

16/17名

### 3 病態生理／疾病論 I

#### a. スタッフ

指導者 北田志郎

指導補助者 春山早苗、平尾温司、関山友子

#### b. 学習目的

解剖学、生理学および病態学の原則を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的かつ迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

#### c. 時間数

42時間（21回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

16/17名

### 4 病態生理／疾病論 II

#### a. スタッフ

指導者 北田志郎

指導補助者 春山早苗、平尾温司、関山友子

#### b. 学習目的

臨床場面において日常的によくみられる主要疾患の病態および治療を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態の変化や疾患および必要となる治療を包括的迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

#### c. 時間数

54時間（27回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

16/17名

**5 臨床薬理学****a. スタッフ**

指導者 大塚公一郎、村上礼子

指導補助者 江角伸吾、須藤俊明

**b. 学習目的**

臨床薬理学の基礎的知識を学習する。

薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理の向上を図るための知識と技術を学ぶ。

代表的な薬物療法について理解し、臨床場面で安全に使用するのに必要な知識を学習する。

**c. 時間数**

42時間（21回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

単元ごとに事後テストを行い、100点満点をもって、次の単元に進む。

最終単元修了後、修了試験（筆記試験）を受験する。修了試験は100点満点で、60点以上の獲得をもって修了を設定し、科目の単位が獲得できる。

**f. 科目取得状況**

19/20名

**6 医療安全学****a. スタッフ**

指導者 新保昌久、遠山信幸

指導補助者 川上 勝、淺田義和、竹野井さとみ、亀森康子

**b. 学習目的**

安全で質の高い特定行為を実施する上で必要な知識や考え方を身につける。

**c. 時間数**

24時間（12回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）、演習

**e. 評価方法**

筆記試験（最終回）

小テストまたは課題レポート（各回）

**f. 科目取得状況**

17/18名

## 7 特定行為と手順書

### a. スタッフ

指導者 新保昌久、村上礼子

指導補助者 鈴木美津枝、大柴幸子

### b. 学習目的

多様な臨床場面において、特定行為関連法規を踏まえ、特定行為の手順書を作成・活用・評価するための実践課程を理解し、必要な特定行為を安全に実践する能力を学修する。

### c. 時間数

30時間（15回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

16/17名

## 8 特定行為と基礎実習 I

### a. スタッフ

指導者 松村正巳、中村剛史、鈴木義彦、大塚公一郎、北田志郎、村上礼子

指導補助者 春山早苗、鈴木美津枝、川上 勝、平尾温司、八木街子、関山友子、江角伸吾、浅田義和、須藤俊明

### b. 学習目的

チーム医療として実践するために必要な基礎的な臨床診断プロセスや診察技術について演習・実習を通して修得する。

### c. 時間数

38時間（演習10回（うち試験1回）+実習3日間）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

e ラーニング演習の最終回は主に展開してきた事例検討の試験を行う。

集合実習の事例展開の最終日に観察評価を行う。合格できるまで試験を受ける。

### f. 科目取得状況

18/20名

## 9 特定行為基礎実習Ⅱ

### a. スタッフ

**指導者** 松村正巳、石川鎮清、畠山修司、松山 泰、石川由紀子、山本 祐、隈部綾子、中村剛史、新保昌久、永谷勝也、釜田康行、矢野智則、山内浩義、遠山信幸、菅原 齊、藤田英雄、崎山快夫、眞嶋浩聰、賀古真一、豊島秀男、寺井千尋、森下義幸、小山信一郎、村上礼子  
**指導補助者** 鈴木美津枝、八木街子

### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に特定行為を実践するための診察技術や臨床診断の基礎的能力を習得する。

### c. 時間数

25時間（7日間）

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

観察評価：病棟・外来実習中に対象者の了解を経て、身体診察、医療面接、多職種との調整などの評価基準の確認を指導者より受ける。

### f. 科目取得状況

18/20名

## 4月期区分別科目

### 1 呼吸器関連 気道確保 I

#### a. スタッフ

指導者 讃井将満、塙塚潤二、川岸利臣、石黒芳紀、大塚祐史、布宮 伸、方山真朱、小山寛介、  
村上礼子  
指導補助者 八木街子、茂呂悦子、神山淳子、八巻 均、荒井和美、八木橋智子、草浦理恵

#### b. 学習目的

チーム医療の中で経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

#### c. 時間数

8時間（4回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

5/5名

### 2 呼吸器関連 気道確保 II

#### a. スタッフ

指導者 讃井将満、塙塚潤二、川岸利臣、石黒芳紀、大塚祐史、布宮 伸、方山真朱、小山寛介、  
村上礼子  
指導補助者 八木街子、茂呂悦子、神山淳子、八巻 均、荒井和美、八木橋智子、草浦理恵

#### b. 学習目的

チーム医療の中で安全にバッグバルブマスク（BVM）を用いた用手換気および経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

#### c. 時間数

15時間（5日間）

#### d. 研修方法

実習

#### e. 評価方法

観察試験：病棟実習中に対象者の了解を得て、身体診察、医療面接、他職種との調整などに関する評価基準をもとに指導医より確認をうける。  
実技試験 OSCE

#### f. 科目取得状況

5/5名

### 3 呼吸器関連 人工呼吸療法 I

#### a. スタッフ

**指導者** 讃井将満、塙塚潤二、川岸利臣、布宮 伸、方山真朱、小山寛介、村上礼子  
**指導補助者** 八木街子、八木橋智子、草浦理恵、茂呂悦子、神山淳子、八巻 均、荒井和美

#### b. 学習目的

チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV（非侵襲的陽圧換気療法）時のモード設定条件の変更を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸管理下の鎮痛・鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

#### c. 時間数

39時間（20回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

8/8名

### 4 呼吸器関連 人工呼吸療法 II

#### a. スタッフ

**指導者** 讃井将満、塙塚潤二、川岸利臣、布宮 伸、方山真朱、小山寛介、村上礼子  
**指導補助者** 八木街子、八木橋智子、草浦理恵、茂呂悦子、神山淳子、八巻 均、荒井和美

#### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV（非侵襲的陽圧換気療法）時のモード設定条件の変更を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

チーム医療の中で安全に人工呼吸管理下の鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

#### c. 時間数

24時間（10日）

#### d. 研修方法

演習、実習

#### e. 評価方法

観察試験：病棟実習中に対象者の了解を得て、人工呼吸療法に関する評価基準をもとに指導医より評価を行う

#### f. 科目取得状況

8/8名

## 5 呼吸器関連 長期呼吸療法

### a. スタッフ

指導者 中村謙一、小野 滋、馬場勝尚、讚井将満、塙塚潤二、川岸利臣、布宮 伸、方山真朱、  
小山寛介、村上礼子

指導補助者 里光やよい、八木街子、黒田光恵、茂呂悦子、八木橋智子、草浦理恵

### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に気管カニューレの交換を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

### c. 時間数

21時間（講義5回＋実習3日間）

### d. 研修方法

講義、実習

### e. 評価方法

筆記試験、実技試験（OSCE）

観察試験：病棟実習中に対象者の了解を得て、気管カニューレの交換に関する評価基準をもとに指導医より確認をうける。

### f. 科目取得状況

8/9名

**6 循環器管理関連（一時的ペースメーカー・PCPS等）I****a. スタッフ**

**指導者** 百村伸一、藤田英雄、坂倉建一、和田 浩、讃井将満、塙塙潤二、川岸利臣、星出 聰、相澤 啓、村上礼子  
**指導補助者** 八木橋智子、草浦理恵、小久保領、八木街子

**b. 学習目的**

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法を学習する。

**c. 時間数**

22時間（11回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

**f. 科目取得状況**

4/4名

**7 循環器管理関連（一時的ペースメーカー・PCPS等）II****a. スタッフ**

**指導者** 百村伸一、藤田英雄、坂倉建一、和田 浩、讃井将満、塙塙潤二、川岸利臣、星出 聰、相澤 啓、村上礼子  
**指導補助者** 八木橋智子、草浦理恵、小久保領、八木街子

**b. 学習目的**

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法・態度を習得する。

**c. 時間数**

24時間（10日間）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

観察評価

**f. 科目取得状況**

4/4名

## 8 胸腔ドレーン管理関連 I

### a. スタッフ

指導者 遠藤俊輔、坪地宏嘉、手塚憲志、相澤 啓、村上礼子

指導補助者 梶原絢子、八木街子

### b. 学習目的

胸腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する。

胸腔ドレーン低圧胸腔内持続吸引中の設定・変更を安全に、かつ適切に実施するための基本的な知識・方法を学習する。

### c. 時間数

18時間（9回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

最終単元において、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

### f. 科目取得状況

2/2名

## 9 胸腔ドレーン管理関連 II

### a. スタッフ

指導者 遠藤俊輔、坪地宏嘉、手塚憲志、相澤 啓、村上礼子

指導補助者 梶原絢子、八木街子

### b. 学習目的

胸腔ドレーンを安全、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法・態度を学習する。

低压胸腔内持続吸引装置の安全、かつ適切な設定調整のための基本的な手技・態度を学習する。

### c. 時間数

12時間（5日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

観察評価

### f. 科目取得状況

2/2名

**10 腹腔ドレーン管理関連 I****a. スタッフ**

**指導者** 力山敏樹、宮倉安幸、齊藤正昭、倉科憲太郎、井上賢之、村上礼子

**指導補助者** 大島美津子、村上礼子、鈴木美津枝

**b. 学習目的**

腹腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する。

**c. 時間数**

10時間（5回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

最終単元において、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

**f. 科目取得状況**

1/1名

**11 腹腔ドレーン管理関連 II****a. スタッフ**

**指導者** 力山敏樹、宮倉安幸、齊藤正昭、倉科憲太郎、井上賢之、村上礼子

**指導補助者** 大島美津子、村上礼子、鈴木美津枝

**b. 学習目的**

腹腔ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および手技・態度を習得する。

**c. 時間数**

12時間（5日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

観察評価：病棟実習では指導者から観察評価を受ける。

**f. 科目取得状況**

1/1名

## 12 ろう孔管理 I

### a. スタッフ

指導者 細谷好則、倉科憲太郎、井上賢之、小野 滋、馬場勝尚、力山敏樹、宮倉安幸、加藤高晴、  
村上礼子

指導補助者 鈴木美津枝、清水みどり、吉澤利恵、黒田光恵、佐藤敏子、大島美津子

### b. 学習目的

胃ろう、腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを安全に交換・管理するための基礎的な知識および方法を学習する。

### c. 時間数

10時間（5回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

3/3名

## 13 ろう孔管理 II

### a. スタッフ

指導者 細谷好則、倉科憲太郎、井上賢之、小野 滋、馬場勝尚、力山敏樹、宮倉安幸、加藤高晴、  
村上礼子

指導補助者 鈴木美津枝、清水みどり、吉澤利恵、黒田光恵、佐藤敏子、大島美津子

### b. 学習目的

胃ろう、腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを交換および管理するための基本的な知識、判断と手技を修得する。

### c. 時間数

15時間（5日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

OSCE

観察評価：外来・病棟実習中に対象者の了解を経て、カテーテル・ボタン交換に関する評価基準の確認を指導者より受ける。

### f. 科目取得状況

3/3名

**14 ろう孔管理（膀胱ろうカテーテルの管理）Ⅲ****a. スタッフ**

**指導者** 森田辰男、黒川真輔、宮川友明、齊藤公俊、村上礼子

**指導補助者** 鈴木美津枝、田村敦子、田口深雪、大島美津子

**b. 学習目的**

1. ろう孔造設に関連する病態から的確に判断するための根拠と方法を学習する。
2. 膀胱ろうカテーテルを安全に管理するための基本的な知識および方法を学習する。

**c. 時間数**

10時間（5回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

試験（毎回の事後テストの内容を筆記試験に充当させる）

評価の時期：講義終了後

**f. 科目取得状況**

3/3名

**15 ろう孔管理（膀胱ろうカテーテルの管理）Ⅳ****a. スタッフ**

**指導者** 森田辰男、黒川真輔、宮川友明、齊藤公俊、村上礼子

**指導補助者** 鈴木美津枝、田村敦子、田口深雪、大島美津子

**b. 学習目的**

ろう孔管理Ⅲで学んだ知識とプロトコールに基づき、ろう孔管理技術の基本を学習する。

**c. 時間数**

15時間（5日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

OSCE

観察評価：外来実習中に対象者の了解を得て、評価基準の確認を指導者より受ける。

**f. 科目取得状況**

3/3名

## 16 栄養に係るカテーテル管理：中心静脈カテーテルの抜去 I

### a. スタッフ

指導者 相澤 啓、讚井将満、塩塚潤二、川岸利臣、村上礼子

指導補助者 八木街子、弘田智香、八木橋智子

### b. 学習目的

中心静脈カテーテルの目的・管理・リスクを学び、安全に中心静脈カテーテルを抜去する方法を学習する。

### c. 時間数

6時間（3回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

4/4名

## 17 栄養に係るカテーテル管理：中心静脈カテーテルの抜去 II

### a. スタッフ

指導者 相澤 啓、讚井将満、塩塚潤二、川岸利臣、村上礼子

指導補助者 八木街子、弘田智香、八木橋智子

### b. 学習目的

中心静脈カテーテル抜去における評価と手技を修得する。

### c. 時間数

12時間（5日間）

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

観察評価（DOPS）を用いて評価する。

### f. 科目取得状況

4/4名

**18 PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）の挿入Ⅰ****a. スタッフ**

指導者 布宮 伸、鯉沼俊貴、大嶺 謙、賀古真一、和田英則、菊地美里、佐藤美樹、村上礼子  
 指導補助者 鈴木美津枝、横山由美、山本真由美、大木海美

**b. 学習目的**

PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）挿入の根拠と方法を学習する。

**c. 時間数**

6時間（3回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

最終回に e-learning による筆記試験

**f. 科目取得状況**

4/4名

**19 PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）の挿入Ⅱ****a. スタッフ**

指導者 布宮 伸、鯉沼俊貴、大嶺 謙、賀古真一、和田英則、菊地美里、佐藤美樹、村上礼子  
 指導補助者 鈴木美津枝、横山由美、山本真由美、大木海美

**b. 学習目的**

PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）を安全に挿入・管理するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

**c. 時間数**

15時間（5日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

3日目午前に OSCE による実技評価、最終日までに観察評価

**f. 科目取得状況**

4/4名

## 20 創傷管理関連 褥瘡 I

### a. スタッフ

指導者 前川武雄、出光俊郎、川瀬正昭、村上礼子

指導補助者 鈴木美津枝、本田芳香、飯塚由美子、太田信子、大島美津子

### b. 学習目的

褥瘡および創傷の病態から的確に判断するための根拠と方法を学習する。

### c. 時間数

27時間（14回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

27時間（14回）

### f. 科目取得状況

11/12名

## 21 創傷管理関連 褥瘡 II

### a. スタッフ

指導者 前川武雄、出光俊郎、川瀬正昭、村上礼子

指導補助者 鈴木美津枝、本田芳香、飯塚由美子、太田信子、大島美津子

### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に創傷管理を実践するための慢性期褥瘡治療管理および陰圧閉鎖療法の方法について実習を通して習得する。

### c. 時間数

45時間（10日間）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）、実習

### e. 評価方法

OSCE（壊死組織除去のみ）、観察評価（（壊死組織除去、陰圧閉鎖療法）

### f. 科目取得状況

11/12名

**22 創部ドレーン管理関連 I****a. スタッフ**

指導者 山口敦司、堀大治郎、倉科憲太郎、井上賢之、藤田崇史、相澤 啓、手塚憲志、村上礼子  
 指導補助者 鈴木美津枝、大島美津子

**b. 学習目的**

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法を学習する

**c. 時間数**

6時間（3回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

2/2名

**23 創部ドレーン管理関連 II****a. スタッフ**

指導者 山口敦司、堀大治郎、倉科憲太郎、井上賢之、藤田崇史、相澤 啓、手塚憲志、村上礼子  
 指導補助者 鈴木美津枝、大島美津子

**b. 学習目的**

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法・態度を修得する。

**c. 時間数**

9時間（3日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

観察評価

**f. 科目取得状況**

2/2名

## 24 動脈血液ガス分析 I

### a. スタッフ

指導者 石黒芳紀、大塚祐史、間藤 卓、山下圭輔、米川 力、布宮 伸、小山寛介、鯉沼俊貴、  
村上礼子  
指導補助者 八木橋智子、鈴木美津枝

### b. 学習目的

動脈血液を安全に採血し、留置ならびに管理するための基本的な知識および方法を学習する。

### c. 時間数

16時間（8回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

10/10名

## 25 動脈血液ガス分析 II

### a. スタッフ

指導者 石黒芳紀、大塚祐史、間藤 卓、山下圭輔、米川 力、布宮 伸、小山寛介、鯉沼俊貴、  
村上礼子  
指導補助者 八木橋智子、鈴木美津枝

### b. 学習目的

動脈血液を安全に採血するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

### c. 時間数

15時間（5日間）

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

実技試験（OSCE）・観察評価

### f. 科目取得状況

10/1名

**26 透析管理 I****a. スタッフ**

指導者 森下義幸、大河原晋、星野太郎、齋藤 修、村上礼子  
 指導補助者 佐竹 晃、安藤勝信、内田隆行、松岡 諒、鈴木美津枝

**b. 学習目的**

血液透析器又は血液透析濾過器を安全に操作及び管理を行うための基本的な知識および方法を学習する

**c. 時間数**

16時間（8回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

3/3名

**27 透析管理 II****a. スタッフ**

指導者 森下義幸、大河原晋、星野太郎、齋藤 修、村上礼子  
 指導補助者 佐竹 晃、安藤勝信、内田隆行、松岡 諒、鈴木美津枝

**b. 学習目的**

急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理するための基本的な知識、判断と手技を修得する

**c. 時間数**

12時間（5日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

観察評価

**f. 科目取得状況**

3/3名

## 28 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整 I

### a. スタッフ

指導者 石橋 俊、倉科憲太郎、賀古真一、和田英則、菊地美里、佐藤美樹、村上礼子

指導補助者 浜端賢次、八木街子、古内三基子、釜井聰子、荒川昌史、中川温美、長谷部忠史

### b. 学習目的

栄養評価を用いて低栄養状態がアセスメントでき、高カロリー輸液の適応と副作用・リスクについて学習する。

### c. 時間数

10時間（5回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

8/8名

## 29 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整 II

### a. スタッフ

指導者 石橋 俊、倉科憲太郎、賀古真一、和田英則、菊地美里、佐藤美樹、村上礼子

指導補助者 浜端賢次、八木街子、古内三基子、釜井聰子、荒川昌史、中川温美、長谷部忠史

### b. 学習目的

低栄養状態と高カロリー輸液のリスクをアセスメントし、適切な高カロリー輸液の選択と調整を学習する。

### c. 時間数

9時間（3日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

観察評価（DOPS を用いて評価する）

### f. 科目取得状況

8/8名

**30 脱水と補液（脱水の程度の判断と補液による補正）I****a. スタッフ**

**指導者** 倉科憲太郎、森下義幸、大河原晋、星野太郎、村上礼子

**指導補助者** 浜端賢次、八木街子、弘田智香、釜井聰子、荒川昌史、中川温美、長谷部忠史

**b. 学習目的**

脱水のアセスメントを行い、脱水の程度に合わせた補液の補正を学習する。

**c. 時間数**

10時間（5回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

8/8名

**31 脱水と補液（脱水の程度の判断と補液による補正）II****a. スタッフ**

**指導者** 倉科憲太郎、森下義幸、大河原晋、星野太郎、村上礼子

**指導補助者** 浜端賢次、八木街子、弘田智香、釜井聰子、荒川昌史、中川温美、長谷部忠史

**b. 学習目的**

脱水の適切な評価ができ、脱水の程度に応じた補液による補正を学習する。

**c. 時間数**

9時間（3日間）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

観察評価（DOPS）

**f. 科目取得状況**

8/8名

## 32 感染徴候時の臨時薬剤の投与 I (特定行為：感染に係る薬剤投与関連)

### a. スタッフ

指導者 森澤雄司、小山信一郎、市橋 光、村上礼子

指導補助者 野々山未希子、八木街子、渡辺美智代、大友慎也、佐々木一雅、水上由美子、立石直人、長谷部忠史

### b. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

### c. 時間数

39時間（20回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）、演習

### e. 評価方法

筆記試験（中間、最終の2回行う）

### f. 科目取得状況

2/2名

## 33 感染徴候時の臨時薬剤の投与 II (特定行為：感染に係る薬剤投与関連)

### a. スタッフ

指導者 森澤雄司、小山信一郎、市橋 光、村上礼子

指導補助者 野々山未希子、八木街子、渡辺美智代、大友慎也、佐々木一雅、水上由美子、立石直人、長谷部忠史

### b. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

### c. 時間数

24時間（10日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

実習の観察評価

### f. 科目取得状況

2/2名

**34 インスリン投与量の調整 I****a. スタッフ**

**指導者** 石橋 俊、岡田健太、原 一雄、吉田昌史、村上礼子

**指導補助者** 鈴木美津枝、長谷川直人、馬場千恵子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、羽鳥智子、長谷部忠史

**b. 学習目的**

患者特性に応じた血糖コントロールを行うためのインスリン投与量の調整の根拠と方法を理解する。

**c. 時間数**

24時間（12回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

2/2名

**35 インスリン投与量の調整 II****a. スタッフ**

**指導者** 石橋 俊、岡田健太、原 一雄、吉田昌史、村上礼子

**指導補助者** 鈴木美津枝、長谷川直人、馬場千恵子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、羽鳥智子、長谷部忠史

**b. 学習目的**

インスリン投与量の調整が必要な患者の病態および心理社会的特性を捉え、医師の包括的指示のもと、患者に安全かつ効果的な方法でインスリン投与量の調整を行うための実践的知識と技術を習得する。

**c. 時間数**

12時間（5日間）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

観察評価 課題レポート

**f. 科目取得状況**

2/2名

## 36 持続点滴投与中薬剤（降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液）の病態に応じた調整Ⅰ

### a. スタッフ

指導者 莖尾七臣、星出 聰、百村伸一、藤田英雄、坂倉建一、和田 浩、讚井将満、塙塚潤二、川岸利臣、村上礼子

指導補助者 鈴木美津枝、福田順子、谷島雅子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、梶原絢子、長谷部忠史

### b. 学習目的

持続点滴投与中薬剤（降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液）の病状に応じた調整に必要な知識と技術を学習する。

### c. 時間数

48時間（24回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験を行う。

### f. 科目取得状況

4/4名

## 37 持続点滴投与中薬剤（降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液）の病態に応じた調整Ⅱ

### a. スタッフ

指導者 莖尾七臣、星出 聰、百村伸一、藤田英雄、坂倉建一、和田 浩、讚井将満、塙塚潤二、川岸利臣、村上礼子

指導補助者 鈴木美津枝、福田順子、谷島雅子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、梶原絢子、長谷部忠史

### b. 学習目的

持続点滴投与中薬剤（降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液）の病態に応じた調整について、実施の可否の判断、実施・報告の一連のプロセスについて学習する。

### c. 時間数

12時間（5日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

臨床実習中の観察評価、実習終了時のレポート

### f. 科目取得状況

4/4名

**38 精神科薬物療法と看護Ⅰ（精神・神経症状にかかる薬物投与関連）****a. スタッフ**

**指導者** 大塚公一郎、須田史朗、塩田勝利、齋藤慎之介、安田 学、佐藤伸秋、嶋崎晴雄、岡島美朗、村上礼子

**指導補助者** 鈴木美津枝、永井優子、石井慎一郎、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、長谷部忠史

**b. 学習目的**

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤（抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬）の投与に関する判断に必要なアセスメントとケアについて理解する。

**c. 時間数**

46時間（23回）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

最終回の筆記試験で60%以上の成績を修めた者に単位を認定する。（ルーブリック参照）

**f. 科目取得状況**

2/2名

**39 精神科薬物療法と看護Ⅱ（精神・神経症状にかかる薬物投与関連）****a. スタッフ**

**指導者** 大塚公一郎、須田史朗、塩田勝利、齋藤慎之介、安田 学、佐藤伸秋、嶋崎晴雄、岡島美朗、村上礼子

**指導補助者** 鈴木美津枝、永井優子、石井慎一郎、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、長谷部忠史

**b. 学習目的**

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤（抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬）の投与に関する判断ができる。

**c. 時間数**

12時間（5日間）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

4/5以上出席して、各回の実習に関する観察評価および作成したレポートの評価をうけ、最終回の評価面接時に、精神・神経症状にかかる抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬の臨時投与を安全に実施することができることを確認する（ルーブリック参照）。

**f. 科目取得状況**

2/2名

## 40 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施Ⅰ

### a. スタッフ

指導者 神田善伸、大嶺 謙、村田 哲、藤井博文、賀古真一、和田英則、菊地美里、佐藤美樹、  
村上礼子  
指導補助者 鈴木美津枝、小原 泉、山本真由美、奥田泰考、大木海美、長谷部忠史

### b. 学習目的

抗癌剤等の皮膚漏出予防を含めた安全な取扱いと、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための根拠と方法を学習する。

### c. 時間数

28時間（14回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

2/2名

## 41 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施Ⅱ

### a. スタッフ

指導者 神田善伸、大嶺 謙、村田 哲、藤井博文、賀古真一、和田英則、菊地美里、佐藤美樹、  
村上礼子  
指導補助者 鈴木美津枝、小原 泉、山本真由美、奥田泰考、大木海美、長谷部忠史

### b. 学習目的

抗がん剤の皮膚漏出を程度・状況を判断し、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための実践的技術を学習する。

### c. 時間数

12時間（5日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

臨床実習中の観察評価、実習終了時のレポート

### f. 科目取得状況

2/2名

**10月期共通科目****1 臨床推論／フィジカルアセスメント I****a. スタッフ**

指導者 松村正巳、中村剛史、鈴木義彦、村上礼子

指導補助者 八木街子

**b. 学習目的**

多様な臨床現場において対象者が持つ問題を改善又は解決するために、臨床推論の概念や症状ごとの臨床推論過程（フィジカルアセスメント含む）について学修する。

**c. 時間数**

34時間（17回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

**f. 科目取得状況**

22/22名

**2 臨床推論／フィジカルアセスメント II****a. スタッフ**

指導者 松村正巳、中村剛史、鈴木義彦、村上礼子

指導補助者 八木街子

**b. 学習目的**

対象者が持つ問題を改善又は解決するための診断プロセス・臨床推論に必要な各種臨床検査、画像検査の原理原則について学修する。

**c. 時間数**

26時間（13回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

**f. 科目取得状況**

22/22名

### 3 病態生理／疾病論 I

#### a. スタッフ

指導者 北田志郎

指導補助者 春山早苗、平尾温司、関山友子

#### b. 学習目的

解剖学、生理学および病態学の原則を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的かつ迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

#### c. 時間数

42時間（21回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

22/22名

### 4 病態生理／疾病論 II

#### a. スタッフ

指導者 北田志郎

指導補助者 春山早苗、平尾温司、関山友子

#### b. 学習目的

臨床場面において日常的によくみられる主要疾患の病態および治療を系統的に理解し、より高度な看護実践に向け、病態の変化や疾患および必要となる治療を包括的迅速に判断出来るよう必要な知識と技術を学修する。

#### c. 時間数

54時間（27回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

22/22名

## 5 臨床薬理学

### a. スタッフ

指導者 大塚公一郎、村上礼子  
指導補助者 江角伸吾、須藤俊明

### b. 学習目的

臨床薬理学の基礎的知識を学習する。  
薬剤使用の判断、投与後の患者モニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理の向上を図るための知識と技術を学ぶ。  
代表的な薬物療法について理解し、臨床場面で安全に使用するのに必要な知識を学習する。

### c. 時間数

42時間（21回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

単元ごとに事後テストを行い、100点満点をもって、次の単元に進む。  
最終単元修了後、修了試験（筆記試験）を受験する。修了試験は100点満点で、60点以上の獲得をもって修了を設定し、科目の単位が獲得できる。

### f. 科目取得状況

22/22名

## 6 医療安全学

### a. スタッフ

指導者 新保昌久、遠山信幸  
指導補助者 川上 勝、淺田義和、竹野井さとみ、亀森康子

### b. 学習目的

安全で質の高い特定行為を実施する上で必要な知識や考え方を身につける。

### c. 時間数

24時間（12回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）、演習

### e. 評価方法

筆記試験（最終回）  
小テストまたは課題レポート（各回）

### f. 科目取得状況

22/22名

## 7 特定行為と手順書

### a. スタッフ

指導者 新保昌久、村上礼子

指導補助者 鈴木美津枝、大柴幸子

### b. 学習目的

多様な臨床場面において、特定行為関連法規を踏まえ、特定行為の手順書を作成・活用・評価するための実践課程を理解し、必要な特定行為を安全に実践する能力を学修する。

### c. 時間数

30時間（15回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

16/17名

## 8 特定行為と基礎実習 I

### a. スタッフ

指導者 松村正巳、中村剛史、鈴木義彦、大塚公一郎、北田志郎、村上礼子

指導補助者 春山早苗、鈴木美津枝、川上 勝、平尾温司、八木街子、関山友子、江角伸吾、浅田義和、須藤俊明

### b. 学習目的

チーム医療として実践するために必要な基礎的な臨床診断プロセスや診察技術について演習・実習を通して修得する。

### c. 時間数

38時間（演習10回（うち試験1回）+実習3日間）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

e ラーニング演習の最終回は主に展開してきた事例検討の試験を行う。

集合実習の事例展開の最終日に観察評価を行う。合格できるまで試験を受ける。

### f. 科目取得状況

22/22名

## 9 特定行為基礎実習Ⅱ

### a. スタッフ

**指導者** 松村正巳、石川鎮清、畠山修司、松山 泰、石川由紀子、山本 祐、隈部綾子、中村剛史、新保昌久、永谷勝也、釜田康行、矢野智則、山内浩義、遠山信幸、菅原 齊、藤田英雄、崎山快夫、眞嶋浩聰、賀古真一、豊島秀男、寺井千尋、森下義幸、小山信一郎、村上礼子  
**指導補助者** 鈴木美津枝、八木街子

### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に特定行為を実践するための診察技術や臨床診断の基礎的能力を習得する。

### c. 時間数

25時間（7日間）

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

観察評価：病棟・外来実習中に対象者の了解を経て、身体診察、医療面接、多職種との調整などの評価基準の確認を指導者より受ける。

### f. 科目取得状況

22/22名

## 10月期区分別科目

### 1 呼吸器関連 気道確保 I

#### a. スタッフ

指導者 讃井将満、塙塚潤二、川岸利臣、石黒芳紀、大塚祐史、布宮 伸、方山真朱、小山寛介、  
村上礼子  
指導補助者 八木街子、茂呂悦子、神山淳子、八巻 均、荒井和美、八木橋智子、草浦理恵

#### b. 学習目的

チーム医療の中で経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

#### c. 時間数

8 時間（4回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

5/5名

### 2 呼吸器関連 気道確保 II

#### a. スタッフ

指導者 讃井将満、塙塚潤二、川岸利臣、石黒芳紀、大塚祐史、布宮 伸、方山真朱、小山寛介、  
村上礼子  
指導補助者 八木街子、茂呂悦子、神山淳子、八巻 均、荒井和美、八木橋智子、草浦理恵

#### b. 学習目的

チーム医療の中で安全にバッグバルブマスク（BVM）を用いた用手換気および経口・経鼻気管挿管チューブの位置調節を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

#### c. 時間数

15時間（5日間）

#### d. 研修方法

実習

#### e. 評価方法

観察試験：病棟実習中に対象者の了解を得て、身体診察、医療面接、他職種との調整などに関する評価基準をもとに指導医より確認をうける。  
実技試験 OSCE

#### f. 科目取得状況

5/5名

### 3 呼吸器関連 人工呼吸療法 I

#### a. スタッフ

指導者 讃井将満、塙塚潤二、川岸利臣、布宮 伸、方山真朱、小山寛介、村上礼子  
指導補助者 八木街子、八木橋智子、草浦理恵、茂呂悦子、神山淳子、八巻 均、荒井和美

#### b. 学習目的

チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV（非侵襲的陽圧換気療法）時のモード設定条件の変更を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

チーム医療の中で人工呼吸療法における人工呼吸管理下の鎮痛・鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を行うための知識、技術の基礎的能力を習得する。

#### c. 時間数

39時間（20回）

#### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

#### e. 評価方法

筆記試験

#### f. 科目取得状況

5/6名

### 4 呼吸器関連 人工呼吸療法 II

#### a. スタッフ

指導者 讃井将満、塙塚潤二、川岸利臣、布宮 伸、方山真朱、小山寛介、村上礼子  
指導補助者 八木街子、八木橋智子、草浦理恵、茂呂悦子、神山淳子、八巻 均、荒井和美

#### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に人工呼吸器モードの設定条件の変更および NPPV（非侵襲的陽圧換気療法）時のモード設定条件の変更を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

チーム医療の中で安全に人工呼吸管理下の鎮静管理、人工呼吸器からの離脱を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

#### c. 時間数

24時間（10日）

#### d. 研修方法

演習、実習

#### e. 評価方法

観察試験：病棟実習中に対象者の了解を得て、人工呼吸療法に関する評価基準をもとに指導医より評価をうける

#### f. 科目取得状況

5/6名

## 5 呼吸器関連 長期呼吸療法

### a. スタッフ

指導者 中村謙一、小野 滋、馬場勝尚、讚井将満、塙塚潤二、川岸利臣、布宮 伸、方山真朱、  
小山寛介、村上礼子

指導補助者 里光やよい、八木街子、黒田光恵、茂呂悦子、八木橋智子、草浦理恵

### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に気管カニューレの交換を実施するための臨床判断と技術および態度の基礎的能力を習得する。

### c. 時間数

21時間（講義5回＋実習3日間）

### d. 研修方法

講義、実習

### e. 評価方法

筆記試験、実技試験（OSCE）

観察試験：病棟実習中に対象者の了解を得て、気管カニューレの交換に関する評価基準をもとに指導医より確認をうける。

### f. 科目取得状況

8/9名

**6 循環器管理関連（一時的ペースメーカー・PCPS等）I****a. スタッフ**

**指導者** 百村伸一、藤田英雄、坂倉建一、和田 浩、讃井将満、塙塙潤二、川岸利臣、星出 聰、相澤 啓、村上礼子  
**指導補助者** 八木橋智子、草浦理恵、小久保領、八木街子

**b. 学習目的**

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法を学習する。

**c. 時間数**

22時間（11回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

最終単元にて、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

**f. 科目取得状況**

1/1名

**7 循環器管理関連（一時的ペースメーカー・PCPS等）II****a. スタッフ**

**指導者** 百村伸一、藤田英雄、坂倉建一、和田 浩、讃井将満、塙塙潤二、川岸利臣、星出 聰、相澤 啓、村上礼子  
**指導補助者** 八木橋智子、草浦理恵、小久保領、八木街子

**b. 学習目的**

一時的ペースメーカー安全に操作及び管理、抜去するための基本的な知識および方法・態度を習得する。

**c. 時間数**

24時間（10日間）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

観察評価

**f. 科目取得状況**

1/1名

## 8 胸腔ドレーン管理関連 I

### a. スタッフ

指導者 遠藤俊輔、坪地宏嘉、手塚憲志、相澤 啓、村上礼子

指導補助者 梶原絢子、八木街子

### b. 学習目的

胸腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する

胸腔ドレーン低圧胸腔内持続吸引中の設定・変更を安全に、かつ適切に実施するための基本的な知識・方法を学習する。

### c. 時間数

18時間（9回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

最終単元において、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

### f. 科目取得状況

2/3名

## 9 胸腔ドレーン管理関連 II

### a. スタッフ

指導者 遠藤俊輔、坪地宏嘉、手塚憲志、相澤 啓、村上礼子

指導補助者 梶原絢子、八木街子

### b. 学習目的

胸腔ドレーンを安全、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法・態度を学習する。

低压胸腔内持続吸引装置の安全、かつ適切な設定調整のための基本的な手技・態度を学習する。

### c. 時間数

12時間（5日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

観察評価

### f. 科目取得状況

2/3名

**10 腹腔ドレーン管理関連 I****a. スタッフ**

**指導者** 力山敏樹、宮倉安幸、齊藤正昭、倉科憲太郎、井上賢之、村上礼子

**指導補助者** 大島美津子、村上礼子、鈴木美津枝

**b. 学習目的**

腹腔ドレーンを安全に、かつ負担を最小限に抜去するための基本的な知識・方法を学習する。

**c. 時間数**

10時間（5回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

最終単元において、筆記試験を行う。評価基準に則り、判定する。

**f. 科目取得状況**

1/1名

**11 腹腔ドレーン管理関連 II****a. スタッフ**

**指導者** 力山敏樹、宮倉安幸、齊藤正昭、倉科憲太郎、井上賢之、村上礼子

**指導補助者** 大島美津子、村上礼子、鈴木美津枝

**b. 学習目的**

腹腔ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および手技・態度を習得する。

**c. 時間数**

12時間（5日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

観察評価：病棟実習では指導者から観察評価を受ける。

**f. 科目取得状況**

1/1名

## 12 ろう孔管理 I

### a. スタッフ

指導者 細谷好則、倉科憲太郎、井上賢之、小野 滋、馬場勝尚、力山敏樹、宮倉安幸、加藤高晴、  
村上礼子

指導補助者 鈴木美津枝、清水みどり、吉澤利恵、黒田光恵、佐藤敏子、大島美津子

### b. 学習目的

胃ろう、腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを安全に交換・管理するための基礎的な知識および方法を学習する。

### c. 時間数

10時間（5回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

7/7名

## 13 ろう孔管理 II

### a. スタッフ

指導者 細谷好則、倉科憲太郎、井上賢之、小野 滋、馬場勝尚、力山敏樹、宮倉安幸、加藤高晴、  
村上礼子

指導補助者 鈴木美津枝、清水みどり、吉澤利恵、黒田光恵、佐藤敏子、大島美津子

### b. 学習目的

胃ろう、腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを交換および管理するための基本的な知識、判断と手技を修得する。

### c. 時間数

15時間（5日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

OSCE

観察評価：外来・病棟実習中に対象者の了解を経て、カテーテル・ボタン交換に関する評価基準の確認を指導者より受ける。

### f. 科目取得状況

7/7名

**14 ろう孔管理（膀胱ろうカテーテルの管理）Ⅲ****a. スタッフ**

**指導者** 森田辰男、黒川真輔、宮川友明、齊藤公俊、村上礼子

**指導補助者** 鈴木美津枝、田村敦子、田口深雪、大島美津子

**b. 学習目的**

1. ろう孔造設に関連する病態から的確に判断するための根拠と方法を学習する。
2. 膀胱ろうカテーテルを安全に管理するための基本的な知識および方法を学習する。

**c. 時間数**

10時間（5回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

試験（毎回の事後テストの内容を筆記試験に充当させる）

評価の時期：講義終了後

**f. 科目取得状況**

7/7名

**15 ろう孔管理（膀胱ろうカテーテルの管理）Ⅳ****a. スタッフ**

**指導者** 森田辰男、黒川真輔、宮川友明、齊藤公俊、村上礼子

**指導補助者** 鈴木美津枝、田村敦子、田口深雪、大島美津子

**b. 学習目的**

ろう孔管理Ⅲで学んだ知識とプロトコールに基づき、ろう孔管理技術の基本を学習する。

**c. 時間数**

15時間（5日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

OSCE

観察評価：外来実習中に対象者の了解を得て、評価基準の確認を指導者より受ける。

**f. 科目取得状況**

7/7名

## 16 栄養に係るカテーテル管理：中心静脈カテーテルの抜去 I

### a. スタッフ

指導者 相澤 啓、讚井将満、塩塚潤二、川岸利臣、村上礼子

指導補助者 八木街子、弘田智香、八木橋智子

### b. 学習目的

中心静脈カテーテルの目的・管理・リスクを学び、安全に中心静脈カテーテルを抜去する方法を学習する。

### c. 時間数

6時間（3回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

7/8名

## 17 栄養に係るカテーテル管理：中心静脈カテーテルの抜去 II

### a. スタッフ

指導者 相澤 啓、讚井将満、塩塚潤二、川岸利臣、村上礼子

指導補助者 八木街子、弘田智香、八木橋智子

### b. 学習目的

中心静脈カテーテル抜去における評価と手技を修得する。

### c. 時間数

12時間（5日間）

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

観察評価（DOPS）を用いて評価する。

### f. 科目取得状況

7/8名

**18 PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）の挿入Ⅰ****a. スタッフ**

指導者 布宮 伸、鯉沼俊貴、大嶺 謙、賀古真一、和田英則、菊地美里、佐藤美樹、村上礼子  
 指導補助者 鈴木美津枝、横山由美、山本真由美、大木海美

**b. 学習目的**

PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）挿入の根拠と方法を学習する。

**c. 時間数**

6時間（3回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

最終回に e-learning による筆記試験

**f. 科目取得状況**

2/2名

**19 PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）の挿入Ⅱ****a. スタッフ**

指導者 布宮 伸、鯉沼俊貴、大嶺 謙、賀古真一、和田英則、菊地美里、佐藤美樹、村上礼子  
 指導補助者 鈴木美津枝、横山由美、山本真由美、大木海美

**b. 学習目的**

PICC（末梢静脈挿入式静脈カテーテル）を安全に挿入・管理するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

**c. 時間数**

15時間（5日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

3日目午前に OSCE による実技評価、最終日までに観察評価

**f. 科目取得状況**

4/4名

## 20 創傷管理関連 褥瘡 I

### a. スタッフ

指導者 前川武雄、出光俊郎、川瀬正昭、村上礼子

指導補助者 鈴木美津枝、本田芳香、飯塚由美子、太田信子、大島美津子

### b. 学習目的

褥瘡および創傷の病態から的確に判断するための根拠と方法を学習する。

### c. 時間数

27時間（14回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

27時間（14回）

### f. 科目取得状況

8/9名

## 21 創傷管理関連 褥瘡 II

### a. スタッフ

指導者 前川武雄、出光俊郎、川瀬正昭、村上礼子

指導補助者 鈴木美津枝、本田芳香、飯塚由美子、太田信子、大島美津子

### b. 学習目的

チーム医療の中で安全に創傷管理を実践するための慢性期褥瘡治療管理および陰圧閉鎖療法の方法について実習を通して習得する。

### c. 時間数

45時間（10日間）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）、実習

### e. 評価方法

OSCE（壊死組織除去のみ）、観察評価（（壊死組織除去、陰圧閉鎖療法）

### f. 科目取得状況

8/9名

**22 創部ドレーン管理関連 I****a. スタッフ**

指導者 山口敦司、堀大治郎、倉科憲太郎、井上賢之、藤田崇史、相澤 啓、手塚憲志、村上礼子  
 指導補助者 鈴木美津枝、大島美津子

**b. 学習目的**

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法を学習する

**c. 時間数**

6時間（3回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

2/3名

**23 創部ドレーン管理関連 II****a. スタッフ**

指導者 山口敦司、堀大治郎、倉科憲太郎、井上賢之、藤田崇史、相澤 啓、手塚憲志、村上礼子  
 指導補助者 鈴木美津枝、大島美津子

**b. 学習目的**

創部ドレーンを安全に管理・抜去するための基本的な知識および方法・態度を修得する。

**c. 時間数**

9時間（3日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

観察評価

**f. 科目取得状況**

2/3名

## 24 動脈血液ガス分析 I

### a. スタッフ

指導者 石黒芳紀、大塚祐史、間藤 卓、山下圭輔、米川 力、布宮 伸、小山寛介、鯉沼俊貴、  
村上礼子  
指導補助者 八木橋智子、鈴木美津枝

### b. 学習目的

動脈血液を安全に採血し、留置ならびに管理するための基本的な知識および方法を学習する。

### c. 時間数

16時間（8回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

10/11名

## 25 動脈血液ガス分析 II

### a. スタッフ

指導者 石黒芳紀、大塚祐史、間藤 卓、山下圭輔、米川 力、布宮 伸、小山寛介、鯉沼俊貴、  
村上礼子  
指導補助者 八木橋智子、鈴木美津枝

### b. 学習目的

動脈血液を安全に採血するための基本的な知識および技術・態度を修得する。

### c. 時間数

15時間（5日間）

### d. 研修方法

実習

### e. 評価方法

実技試験（OSCE）・観察評価

### f. 科目取得状況

10/11名

**26 透析管理 I****a. スタッフ**

指導者 森下義幸、大河原晋、星野太郎、齋藤 修、村上礼子  
 指導補助者 佐竹 晃、安藤勝信、内田隆行、松岡 諒、鈴木美津枝

**b. 学習目的**

血液透析器又は血液透析濾過器を安全に操作及び管理を行うための基本的な知識および方法を学習する

**c. 時間数**

16時間（8回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

2/2名

**27 透析管理 II****a. スタッフ**

指導者 森下義幸、大河原晋、星野太郎、齋藤 修、村上礼子  
 指導補助者 佐竹 晃、安藤勝信、内田隆行、松岡 諒、鈴木美津枝

**b. 学習目的**

急性血液浄化療法における血液透析器又は血液透析濾過器の操作及び管理するための基本的な知識、判断と手技を修得する

**c. 時間数**

12時間（5日間）

**d. 研修方法**

実習

**e. 評価方法**

観察評価

**f. 科目取得状況**

2/2名

## 28 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整 I

### a. スタッフ

指導者 石橋 俊、倉科憲太郎、賀古真一、和田英則、菊地美里、佐藤美樹、村上礼子

指導補助者 浜端賢次、八木街子、古内三基子、釜井聰子、荒川昌史、中川温美、長谷部忠史

### b. 学習目的

栄養評価を用いて低栄養状態がアセスメントでき、高カロリー輸液の適応と副作用・リスクについて学習する。

### c. 時間数

10時間（5回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

9/10名

## 29 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：持続点滴中の高カロリー輸液投与量の調整 II

### a. スタッフ

指導者 石橋 俊、倉科憲太郎、賀古真一、和田英則、菊地美里、佐藤美樹、村上礼子

指導補助者 浜端賢次、八木街子、古内三基子、釜井聰子、荒川昌史、中川温美、長谷部忠史

### b. 学習目的

低栄養状態と高カロリー輸液のリスクをアセスメントし、適切な高カロリー輸液の選択と調整を学習する。

### c. 時間数

9時間（3日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

観察評価（DOPS を用いて評価する）

### f. 科目取得状況

9/10名

**30 脱水と補液（脱水の程度の判断と補液による補正）I****a. スタッフ**

**指導者** 倉科憲太郎、森下義幸、大河原晋、星野太郎、村上礼子

**指導補助者** 浜端賢次、八木街子、弘田智香、釜井聰子、荒川昌史、中川温美、長谷部忠史

**b. 学習目的**

脱水のアセスメントを行い、脱水の程度に合わせた補液の補正を学習する。

**c. 時間数**

10時間（5回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

9/10名

**31 脱水と補液（脱水の程度の判断と補液による補正）II****a. スタッフ**

**指導者** 倉科憲太郎、森下義幸、大河原晋、星野太郎、村上礼子

**指導補助者** 浜端賢次、八木街子、弘田智香、釜井聰子、荒川昌史、中川温美、長谷部忠史

**b. 学習目的**

脱水の適切な評価ができ、脱水の程度に応じた補液による補正を学習する。

**c. 時間数**

9時間（3日間）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

観察評価（DOPS）

**f. 科目取得状況**

9/10名

## 32 感染徴候時の臨時薬剤の投与 I (特定行為：感染に係る薬剤投与関連)

### a. スタッフ

指導者 森澤雄司、小山信一郎、市橋 光、村上礼子

指導補助者 野々山未希子、八木街子、渡辺美智代、大友慎也、佐々木一雅、水上由美子、立石直人、長谷部忠史

### b. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

### c. 時間数

39時間（20回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）、演習

### e. 評価方法

筆記試験（中間、最終の2回行う）

### f. 科目取得状況

4/5名

## 33 感染徴候時の臨時薬剤の投与 II (特定行為：感染に係る薬剤投与関連)

### a. スタッフ

指導者 森澤雄司、小山信一郎、市橋 光、村上礼子

指導補助者 野々山未希子、八木街子、渡辺美智代、大友慎也、佐々木一雅、水上由美子、立石直人、長谷部忠史

### b. 学習目的

感染徴候時に、身体所見および検査結果から総合的に病状を判断し、効果的な臨時薬剤の投与を行う実践的知識と技術を習得する。

### c. 時間数

24時間（10日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

実習の観察評価

### f. 科目取得状況

4/5名

**34 インスリン投与量の調整 I****a. スタッフ**

**指導者** 石橋 俊、岡田健太、原 一雄、吉田昌史、村上礼子

**指導補助者** 鈴木美津枝、長谷川直人、馬場千恵子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、羽鳥智子、長谷部忠史

**b. 学習目的**

患者特性に応じた血糖コントロールを行うためのインスリン投与量の調整の根拠と方法を理解する。

**c. 時間数**

24時間（12回）

**d. 研修方法**

講義（e ラーニング）

**e. 評価方法**

筆記試験

**f. 科目取得状況**

4/4名

**35 インスリン投与量の調整 II****a. スタッフ**

**指導者** 石橋 俊、岡田健太、原 一雄、吉田昌史、村上礼子

**指導補助者** 鈴木美津枝、長谷川直人、馬場千恵子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、羽鳥智子、長谷部忠史

**b. 学習目的**

インスリン投与量の調整が必要な患者の病態および心理社会的特性を捉え、医師の包括的指示のもと、患者に安全かつ効果的な方法でインスリン投与量の調整を行うための実践的知識と技術を習得する。

**c. 時間数**

12時間（5日間）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

観察評価 課題レポート

**f. 科目取得状況**

4/4名

## 36 持続点滴投与中薬剤（降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液）の病態に応じた調整Ⅰ

### a. スタッフ

指導者 莖尾七臣、星出 聰、百村伸一、藤田英雄、坂倉建一、和田 浩、讚井将満、塙塚潤二、川岸利臣、村上礼子

指導補助者 鈴木美津枝、福田順子、谷島雅子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、梶原絢子、長谷部忠史

### b. 学習目的

持続点滴投与中薬剤（降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液）の病状に応じた調整に必要な知識と技術を学習する。

### c. 時間数

48時間（24回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験を行う。

### f. 科目取得状況

5/6名

## 37 持続点滴投与中薬剤（降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液、電解質輸液）の病態に応じた調整Ⅱ

### a. スタッフ

指導者 莖尾七臣、星出 聰、百村伸一、藤田英雄、坂倉建一、和田 浩、讚井将満、塙塚潤二、川岸利臣、村上礼子

指導補助者 鈴木美津枝、福田順子、谷島雅子、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、梶原絢子、長谷部忠史

### b. 学習目的

持続点滴投与中薬剤（降圧剤、カテコラミン、利尿剤、K・Cl・Na、糖質輸液・電解質輸液）の病態に応じた調整について、実施の可否の判断、実施・報告の一連のプロセスについて学習する。

### c. 時間数

12時間（5日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

臨床実習中の観察評価、実習終了時のレポート

### f. 科目取得状況

5/6名

**38 精神科薬物療法と看護Ⅰ（精神・神経症状にかかる薬物投与関連）****a. スタッフ**

**指導者** 大塚公一郎、須田史朗、塩田勝利、齋藤慎之介、安田 学、佐藤伸秋、嶋崎晴雄、岡島美朗、村上礼子

**指導補助者** 鈴木美津枝、永井優子、石井慎一郎、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、長谷部忠史

**b. 学習目的**

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤（抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬）の投与に関する判断に必要なアセスメントとケアについて理解する。

**c. 時間数**

46時間（23回）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

最終回の筆記試験で60%以上の成績を修めた者に単位を認定する。（ルーブリック参照）

**f. 科目取得状況**

5/5名

**39 精神科薬物療法と看護Ⅱ（精神・神経症状にかかる薬物投与関連）****a. スタッフ**

**指導者** 大塚公一郎、須田史朗、塩田勝利、齋藤慎之介、安田 学、佐藤伸秋、嶋崎晴雄、岡島美朗、村上礼子

**指導補助者** 鈴木美津枝、永井優子、石井慎一郎、釜井聰子、奥田泰考、大友慎也、長谷部忠史

**b. 学習目的**

精神科薬物療法を受けている人の臨時薬剤（抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬）の投与に関する判断ができる。

**c. 時間数**

12時間（5日間）

**d. 研修方法**

演習、実習

**e. 評価方法**

4/5以上出席して、各回の実習に関する観察評価および作成したレポートの評価をうけ、最終回の評価面接時に、精神・神経症状にかかる抗けいれん薬、抗精神病薬、抗不安薬の臨時投与を安全に実施することができることを確認する（ルーブリック参照）。

**f. 科目取得状況**

5/5名

## 40 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施Ⅰ

### a. スタッフ

指導者 神田善伸、大嶺 謙、村田 哲、藤井博文、賀古真一、和田英則、菊地美里、佐藤美樹、  
村上礼子  
指導補助者 鈴木美津枝、小原 泉、山本真由美、奥田泰考、大木海美、長谷部忠史

### b. 学習目的

抗癌剤等の皮膚漏出予防を含めた安全な取扱いと、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための根拠と方法を学習する。

### c. 時間数

28時間（14回）

### d. 研修方法

講義（e ラーニング）

### e. 評価方法

筆記試験

### f. 科目取得状況

3/3名

## 41 抗癌剤等の皮膚漏出時のステロイド薬の調整・局所注射の実施Ⅱ

### a. スタッフ

指導者 神田善伸、大嶺 謙、村田 哲、藤井博文、賀古真一、和田英則、菊地美里、佐藤美樹、  
村上礼子  
指導補助者 鈴木美津枝、小原 泉、山本真由美、奥田泰考、大木海美、長谷部忠史

### b. 学習目的

抗がん剤の皮膚漏出を程度・状況を判断し、医師の包括的指示のもとで皮膚漏出に対する薬理学的および非薬理学的対応を行うための実践的技術を学習する。

### c. 時間数

12時間（5日間）

### d. 研修方法

演習、実習

### e. 評価方法

臨床実習中の観察評価、実習終了時のレポート

### f. 科目取得状況

3/3名

## 2) 研究報告

### 教職員

#### ● 論文

- ・鈴木美津枝, 村上礼子, 関山友子, 江角伸吾, 川上 勝, 石井慎一郎, 春山早苗 : ICT を活用した遠隔教育の推進に向けた学習支援方法の検討—就労継続支援型で特定行為に係る看護師の研修を受ける看護師の思いに着目してー. 日本ルーラルナーシング学会誌, 12 ; 19-26, 2017.
- ・八木（佐伯）街子, 村上礼子, 鈴木美津枝, 三科志穂, 関山友子, 佐々木雅史, 中野真理子, 川上 勝, 北田志郎, 大塚公一郎, 中村美鈴, 成田 伸, 春山早苗 : 特定行為に係る看護師の研修におけるオンライン掲示板利用の検討. 日本ルーラルナーシング学会誌, 12 ; 1-8, 2017.
- ・鈴木美津枝, 村上礼子, 八木（佐伯）街子, 三科志穂, 浅田義和, 関山友子, 江角伸吾 : ICT を活用した「演習」から「シミュレーション実習」へ繋ぐ企画の評価. 日本シミュレーション医療教育学会, 5 ; 30-34, 2017.
- ・八木（佐伯）街子 : 看護師特定行為研修でのシミュレーション実践例の紹介. 日本臨床麻酔学会誌 , 38 (1) 83-87, 2018.
- ・鈴木美津枝, 村上礼子, 八木（佐伯）街子 : 看護師特定行為研修の共通科目の実習指導におけるICTを活用した看護教員の指導の評価 -基礎実習Ⅱの学びの分析から- . 自治医科大学看護学ジャーナル, 15, 17-25, 2018.

#### ● 雜誌

- ・八木（佐伯）街子, 村上礼子, 鈴木美津枝, 渡辺芳江, 菅野一枝, 讃井将満, 石川鎮清, 春山早苗 : 急性期病院における特定行為にかかる看護師の研修制度の活用のための示唆—受講ニーズ調査の結果からー. 看護展望, 42 (13) ; 1253-1259.
- ・学会発表

#### ● 国際会議

- ・The Association for Medical Education in Europe (AMEE) 2017  
M.S. Yagi, M. Suzuki, Y. Suzuki, T. Nakamura, R. Murakami. Effects of blended learning on the clinical reasoning process of Japanese nurses who are trained in Specified Medical Acts. AMEE 2017, 26-30 August 2017, Messukeskus Expo and Convention Centre, Helsinki, Finland
- ・The International Meeting on Simulation in Healthcare (IMSH 2018)  
M. S.Yagi., M. Suzuki., R. Murakami. Effect of roleplay simulation training for advance practice nurses to expand roles assessed from portfolios. IMSH2018, 13-18 January 2018. Los Angeles Convention Center, Los Angels, CA, USA.

#### ● 国内発表

- ・第5回日本シミュレーション医療教育学会学術集会（2017年9月23日：東京医科大学病院 シミュレーションセンター, 東京都新宿区）  
村上礼子, 鈴木義彦, 八木街子, 鈴木美津枝. 看護師特定行為研修における客観的臨床能力評価能力の評価方法の検討
- ・第37回日本看護科学学会学術集会（2017年12月16～17日：仙台国際センター, 仙台市青葉区）  
八木（佐伯）街子. 特定行為に係る看護師の研修に関するニーズ調査（口演）  
鈴木美津枝. 外科的デブリードマン練習用パッドの効果と課題（示説）

#### ● 講演

- ・第20回日本臨床救急医学会総会・学術集会（2017年5月27～28日：東京ビックサイト, 東京都江東区有明）

村上礼子、指定研修機関ができること—自治医科大学看護師特定行為研修センターの取り組み—（シンポジウム）

- ・New Education Expo 2017（2017年6月1日～3日：東京ファッションタウンビル、東京都江東区有明）
- 八木（佐伯）街子、医療分野におけるTEL（Technology Enhanced Learning）を考える～シミュレーション、eラーニング等ICTの視点より～
- ・看護シミュレーションワークショップ in 青森（2017年11月3日：弘前大学医学部保健学科、青森県弘前市）
- 八木（佐伯）街子、シミュレーション教育のデザイン－看護師特定行為研修の実践例－

### ●外部資金の獲得

- ・厚生労働科学研究費補助金  
看護師の特定行為に係る研修制度の普及等に関する研究
- ・文部科学省科学研究費 基盤研究（C）  
特定行為研修修了看護師がチーム医療の中で機能する組織体制づくりの支援に関する研究  
研究代表者 村上礼子

### ●その他

- ・第21回日本看護管理学会学術集会（2017年8月20日～21日：パシフィコ横浜、神奈川県横浜市）  
特定行為研修の指定研修機関と協力施設との連携上の課題と今後の展望（インフォメーション・エクスチェンジ）
- ・第21回日本遠隔医療学会学術大会（2017年9月30日～10月1日：栃木県総合文化センター、栃木県宇都宮市）  
特定行為にかかる看護師の研修制度」におけるICTを用いた遠隔教育－遠隔医療の支え手としての特定行為研修修了者の可能性－（ワークショップ）  
WS2-1 春山早苗、特定行為にかかる看護師の研修とは  
WS2-2 八木（佐伯）街子、村上礼子、鈴木美津枝、永井優子、春山早苗、看護師特定行為研修における実践教育へのICT活用の有効性  
WS2-3 村上礼子、特定行為研修修了者が遠隔医療で活躍するための課題と展望

### ●受賞歴

日本IMS協会主催第2回IMSJapan賞優秀賞

## 研修生

### ●学会発表

#### 国際学会

- ・21st EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars) & 11th INC (International Nursing Conference)  
M. Soneda, M. S. Yagi, M. Suzuki, R. Murakami. Status of organizations for the promotion of expanded nursing roles (Poster) Lotte Hotel World (Jamsil), Seoul, Korea, January 11-12, 2018.

#### 国内発表

- ・第27回日本臨床工学技士会（2017年5月20日～5月21日：リンクステーションホール青森、青森県青森市堤町）  
藤川ひづる、臨床工学技士業務と特定行為に係る看護師業務を経験して（口演）
- ・第26回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会（2017年6月2～3日：幕張メッセ、千葉県千葉市）  
木工達也、在宅看護における看護師特定行為研修修了看護師の活動と成果～褥瘡治療～（口演）

- ・第53回日本赤十字社医学会総会（発表日時：2017年10月23日～24日：仙台国際センター、宮城県仙台市）  
角田鮎美. 看護師特定行為における医療連携と在宅活用の実際（口演）
- ・第12回 医療の質・安全学会（2017年11月24日～26日）：幕張メッセ 国際会議場（千葉県千葉市）  
藤川ひづる. 医師数の激減した地域医療支援病院で特定行為に係る看護師業務を開始して～他職種と共に（口演）

### ●講演

- ・第2回看護師の特定行為に係る指定研修機関意見交換会（2017年9月12日、三田共用会議所講堂、東京都港区）  
神田美由紀. 事例報告：研修修了生の立場から（発表スライド有）
- ・第33回岐阜県病院協会医学会（2017年10月29日：長良国際会議場、岐阜県岐阜市長良福光）  
平成29年度「特定行為に係る看護師の研修制度ミニフォーラム  
梶本 聰. 〈II 特定行為研修の実際と看護実践への活用〉（講演）
- ・これから医療を支える看護師特定行為研修シンポジウム in 東京（2017年12月20日、三田共用会議所講堂、東京都港区）  
菅原明美. 地域を支える病院における特定行為研修修了者の活動（シンポジウム）
- ・日本医工学治療学会第34回学術大会（2018年3月16～18日、大宮ソニックスティ、埼玉県さいたま市）  
土屋留美. 集中治療呼吸管理セミナー これであなたもスペシャリストへ一歩、近づける・・特定行為から学んだ人工呼吸器管理における重要な視点（ラウンドテーブルディスカッション）

### ●指定集会

- ・第21回日本看護管理学会学術集会（2017年8月20日～21日：パシフィコ横浜、神奈川県横浜市）  
特定行為研修の指定研修機関と協力施設との連携上の課題と今後の展望（インフォメーション・エクスチェンジ）  
塙田真彰、菅原明美

### ●雑誌

- ・木工達也. 全国訪問看護事業協会「訪問看護ステーションニュース」  
2017年3月号 No.135  
2017年9月号 No.138
- ・天内陽子. 特定行為研修を終了した看護師による褥瘡診療の実際. Monthly Book Derma. No.266  
(2018年2月号), p.81-86

### ●その他

- ・木工達也. リーフレット・これから医療を支える「看護師の特定行為研修」（訪問看護ステーション・介護施設の皆さんへ）  
<http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000195338.pdf>

---

自治医科大学  
看護師特定行為研修センター一年次報告書

2015 – 2017 年度

2019 年 3 月 31 日発行

---

発 行 所 自治医科大学看護師特定行為研修センター  
栃木県下野市薬師寺 3311-159  
電話 0285-58-8932

編集責任者 研修責任者 村上礼子

印 刷 鈴木印刷株式会社



